空の刀が目指すは雷の神　外伝　正義の殺戮者

霊宮空刀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
空の刀が目指すは雷の神　外伝　正義の殺戮者

【Ｎコード】
Ｎ１７２５Ｘ

【作者名】
霊宮空刀

【あらすじ】
ＦＡＩＲＹＴＡＩＬ　空の刀が目指すは雷の神で聖夜が気まぐれにおとしたガイアメモリ。その使い手は一体、何を見て、何を糧に生きるのか

データ1　物・語・開・始（前書き）

タイトル変更

データ1　物・語・開・始

ｓｉｄｅ??
はぁ・・・はぁ・・・はぁ・・・なんなんだよ・・・あの変な奴は!?変なメモリを体に刺したと思えば変な仮面かぶって!?逃げなきゃな・・・・真正面からやりあったら数で押されて俺の負けだ・・・でもこのままいけば行き止まり・・・どうすればいいんだよ!!
ｓｉｄｅｏｕｔ
ｓｉｄｅ第三者
この事の起こりは1時間前にさかのぼる
彼は学校の放課後、とある廃工場に忍び込んでいた。理由は簡単だ。家に帰りたくないからである。彼の家は親が堕落した生活を送り、彼が汗水たらしてバイトをした金で遊び暮らしていた。だから彼は友達の家を泊まり歩くようになった。そのたび親は反省したふりをして、働くことを強要している。だからだ
ｓｉｄｅ??

「さてと・・・玲人とかは親も事情分かっているから泊まりやすいんだけど・・・・迷惑かけたくないしな・・・今日はここで寝るかな」

玲人とは神山玲人のことである。俺の親友で、弟の神山零時とも兄弟のように仲が言い。しかし、3日連続はさすがに駄目だと思い、ここに泊まろうと思った。
「それにしても・・・・変な物音するなぁ?」

ギシィ・・・ギシィ・・・と軋むような音がしている。俺はその音源を探ることにした。そして、その音源を探り当てたのだが・・・・

（カラーギャングの集会か？それにしては全員スーツだな？）

俺はそれをじっと眺めていると、とある音声がなる。

『『『『『マスカレイド！！！！！！！』』』』』

（！？なんだあれは！？）

俺はその場から離れようとしたが、急いだのが不幸で、物音を立ててしまった

「マズ！急がねえと！！」

ここから俺とあいつらの鬼ごっこが始まったんだ

話を戻す

「ちくしょう！！もう行き止まり・・・」

俺は心なしか不安な声を出す。駄目だ駄目だ！！諦めたら試合終了だ！！その瞬間、頭に何かが落ちる。

「痛っ！！なんだよこれ・・・」

俺は変な形をしたものと、ＵＳＢメモリみたいなものがあった。血のように赤く、「Ｇ」と書かれていた。あとは手紙が一枚。俺はその手紙を読んでみることにした。時間がないが、読まなくてはいけない気がした

『これを見ている奴、俺は空刀聖夜だ。この手紙を手にしたときにロストドライバーとガイアメモリの使い方を頭に流し込んでおく。最後に、正しいことに使え。以上』

読み終わると使い方が頭に浮かびこみ、手紙は灰になった。そして、

ＵＳＢメモリ、ガイアメモリと変な形の機械、ロストドライバーを手に取る。

「なるほどな・・・・・・」

俺の目の前には変な集団が迫ってきた。いっちょやってやりますか！！命がけだしな

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

掛け声はこいつしかない。俺が尊敬するヒーローの！！

「変身！！！」

俺はロストドライバーのメモリを入れるほうにジェノサイドのメモリをいれ、右側に倒す。

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

そして俺の体は血のような装甲に包まれ、そこに立っていたのは

「俺の名は・・・仮面ライダージェノサイド。さぁ・・殺戮タイムだ」

俺はそういうと集団の中へと入り、手当たりしだいパンチとキックを決める。あいつらは意外と弱いのか、すぐに全員を倒し終わってしまった。

「正義・・・か・・・」

とりあえず俺は荷物を取りに廃工場へと戻った

主人公のデータ（前書き）

主人公のデータです

主人公のデータ

名前：慈円　炎忌　じえん　えんき
年齢：１６歳
学年：高校一年生
容姿：灼眼のシャナの佐藤啓作の髪の毛、瞳を赤色にした感じ。意外と女子の間では人気。リア充ではない
持っているメモリ：ジェノサイド　殺戮の記憶
性格：親友や信頼できそうな人以外は信用しない。親のせいで人間不信気味
魔力：ＳＳＳランク　なのは並み
デバイス：テンペスタ
デバイスを手に入れた経緯：たまたま神山玲人からもらった。零時の友達の親が作り上げたものらしい。
魔力が多いわけ：生まれつき
紹介：高校一年生で、とある廃工場でジェノサイドのメモリとロストドライバーを手に入れたときから物語は動き出した。親が堕落しているため、あまり人、特に大人を信用しない。動物で好きなのは狼。なぜならかっこいいから。信用できるのは神山家の人々だと公言している。一部ではＢＬとか言われている。しているバイトは神山父の運送会社の下働き。トラックは運転しないが力が強いので重いものを持ち運べる。だから重宝される。真面目に働いているから給料も２割増し。
管理局との関係：特になし
機動六課と会う確率：本編はもう始まっているのでかかわらないと思う。世界観を使用しているだけなので
名前の由来：慈円、じえ、じぇ、ジェノサイドというわけです。こじつけに近いかな？
炎忌　赤色→炎、忌→忌み嫌われるという為

以上です
慈円「人気出るかな」
霊宮「出ない」
慈円「言うなそれを。つーか管理局には出くわしたくない。お前原作知ってんのか」
霊宮「知らん」
慈円「駄目だこりゃ」
霊宮「他の人の二次創作を読んで補完します」
慈円「次回もよろしく」

データ2　殺・戮・青・年（前書き）

フォーゼタイトルみたいですね。ついでに主人公狂キャラかも・・・
グロ描写あり、苦手な人はＧＯｔｏｂａｃｋ

データ2　殺・戮・青・年

ｓｉｄｅ炎忌

俺は廃工場につき、荷物を回収した後で駅に一旦よってロッカーに荷物を預けておいた。今は廃工場にまたいる。

「それにしても・・・ジェノサイドか。殺戮者の記憶・・・か・・・」

殺戮とは・・・意味はよく分からんが複数の人間を一方的に殺すことらしい。一人が複数の人間を殺す・・・この力とデバイスさえあれば・・・・スベテコロセルジャナイカ

「ハハハハハッ！！！！ハハハハハハッ！！！！アッハッハ！！！！殺してやるよ、スベテ、スベテナァァァァァァ！！！！！」

手始めにあいつらだ・・・俺が苦労をすることになったあいつらを殺してやる・・・・・ああユカイダナァァ！！！！！

～炎忌宅～

俺は自分のデバイス『テンペスタ』を展開している。そして家のドアを合鍵であけ、静かに中へ入る。そしてリビングへ行くと、酒を飲んでいる親を見つけた。親は俺を見つけると

「おい！！金出せ！！！！」

「出しなさいよ！！！！」

もう麻薬とか覚せい剤やってんじゃないのかっていうくらい金に執着していた。救いようがねえ。殺してやるのが幸せみたいなもんだ。

俺はデバイスの手甲をナイフにすると、父親のほうに一瞬で近づいて心臓を串刺しにする。

「がふぁ」

そう言うと口から血を吐いた。ナイフをさしたところからも血が流れ出した。さらにナイフを炎が伝わせ、血を床に垂らす前に血すら燃やしつくす。あとは灰だけが残った。

「次はお前だ」

そして言葉を言う前に母親の口の中にナイフを突き刺す。さらに炎を体内に流し込み燃やしつくす。汚物の処理はこれで完了だ。あとは灰をどうするかだが・・・

「埋めておこう」

俺は庭に灰を埋めておいた。人体を燃やせば灰になるほか骨が残るはずだが、その骨をたたき尽くせば灰になる。これが仕掛けと言うわけだ。そしてすべて灰にして埋め終わると、俺は部屋の掃除を始めた

〜少年掃除中〜

「終わった。これで家に住める」

俺は家に住むためだけに親を殺したのかもしれない。だけど、後悔はしていない。自堕落な親だから死んでもかまわないはず。ヒーローだぁ？道徳だ？んなもんいらねえんだよ！！！！

「荷物取りに行くか」

その前にデバイスを待機状態にしよう。
～少年移動中～
俺は荷物を取るとすぐさま家に帰り、再び自分の部屋に荷物を置いた。何ヶ月振りだろうか分からなくなるが、自分の部屋はいい。次に冷蔵庫の確認だが驚くほどに酒しかない。酒のほうは神山家にお中元みたいにあげるとして、食材とかをどうするかだな・・・明日買えばいいか。高校ないし。俺はこれからの日々に期待をはせながら眠りについた
ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ聖夜

「なーなー蛇川。おもしろいぜこいつ」

「なんだよ」

俺は蛇川にそう声をかけると、慈円炎忌が親を殺しているところを見せた。案の定蛇川はばつの悪そうな顔をした

「まさかとは思うが・・・・」

「ああ・・・ジェノサイドの使い手に恥じない奴だぜ」

こいつをしばらく観察しているか
ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ第三者
「ふぁ～あ、もう９時か」

ちょうど炎忌は朝、気持ちのいい目覚めをすると服を着替えて歯を磨き、食材を買いに行った
～スーパーマーケット～

「特売やすいな」

炎忌は特売で食材を大量に買い込むと、幸せな顔で帰路についていた。誰から見ても幸せな顔である。そうして炎忌は家に着くと食材を冷蔵庫にしまってから外へ出た。鍵はきちんと閉めたらしい。そしてどこからか悲鳴が聞こえる

「キャァァァァ！！！！！」

「何なんだ！？」
炎忌がそこへ急ぐと、マスカレイド集団（仮）と中心に変な怪物がいた

「へぇ・・・厄介事に巻き込まれるもんだねぇ。厄介な人間を消した後は！！」

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

「変身！！！」

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

炎忌は仮面ライダージェノサイドに変身していきなりベルトの左側を押した

『ＧＥＮＯＣＩＤＥＭＡＧＮＵＭ』

「まったくもう・・・・敵が多いと集中できない」

炎忌がマスカレイド集団（仮）＋怪人に銃撃を浴びせかける。マスカレイドのほうは全員やられるが、怪人のほうはタフで倒れない。

「なら真正面からだぜ」

『ＧＥＮＯＣＩＤＥＳＨＡＦＴ』

炎忌がジェノサイドシャフトで怪人のほうに打撃を加えるが、それを怪人のほうは腕でガードして炎忌にパンチとキックの連打を浴びせかける

「がはぁ！」

負けじと炎忌もシャフトで打撃を加えるが、怪人のほうはき攻撃が効いていないようで、ものともせずに炎忌に打撃を連続で決める

「っち！！！一点突破するしかないようだな」

炎忌はベルトのマキシマムスロットにロストドライバーから引き抜いたジェノサイドのメモリを入れ、軽くたたく

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！ＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ！！』

「ライダァァァパァァンチィィ！！！！」

炎忌は怪人の腹にマキシマムドライブを叩き込んだ。そして、

「グギィァァァ！！！！」

多分だが人間には発音できない言葉を発して消滅した。そして炎忌は変身を解く。

「なんなんだよ・・・ん？」

炎忌が地面からＵＳＢメモリのようなものを拾った。どうやらＶと書かれているようだが、炎忌が触ったとたんに砕け散った

「なんなんだよ」

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ2　殺・戮・青・年（後書き）

デバイス名：テンペスタ
バリアジャケット：赤色の短パンに赤色のノースリーブ、その上にWのNEVERのジャケットをはおっている。
炎忌の魔力光：赤色
出たドーパント：バイレオンスドーパント

データ3　学・園・生・活

ｓｉｄｅ炎忌

「・・・・という結果だ。玲人」

「ああ・・・お前もずいぶんな事しちまったな。親を殺しちまったからな」

玲人に昨日、一昨日のことを話すと、深刻そうな顔をしていた。別に証拠隠滅もしっかりしたからいいのだが。問題は管理局だ。魔力を感知して・・・・ということだな

「後は、ガイアメモリだな・・・そのロストドライバーとジェノサイドメモリを解析させてくれなイカ？」

「問答無用却下」

酷だが仕方ない。なんせ玲人の手にかかれば人気番組のＤＶＤ録画を頼んだら国家機密をＤＶＤに入れやがった。パソコンの修理を頼んだら自動ハッキングプログラムとかをつけた。挙句の果てには・・・・もう言えない、流石に

「なんだよ人の事をマッドサイエンティストみるような眼で」

「お前はそのまんまだろう」

ちなみに俺たちは授業をさぼって屋上に居る。玲人にかかれば勉強を教えてテスト1位なんて夢ではない、幻想でもないのである。ナハハハハハー

「と、まぁこれくらいにして・・・・・管理局の動向は？」

「おｋ、機動六課のメンバーが分かったぜ。総部隊長に八神はやて、スターズ分隊とやらの隊長に高町なのは、ライトニング分隊にフェイト・Ｔ・ハラオウン、スターズにスバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、ライトニング分隊にエリオ・モンディアル、キャロ・ル・ルシエ、さらにシグナム、シャマル、ヴィータ、ザフィーラなる奴らもいるらしい」

「おお・・・・こりゃすごいお人たちで」

まったく・・・・・動きにくくなるなぁ。おもに仮面ライダーとして。協力者になるほかないじゃん。捕まったら、の話だけどな

「んでさ、バイク頼むわ」

「バイク？ああ、免許取ったんだっけ。非公式で」

俺の免許証にはミッド語で特別認定と書かれている。これを見せればほとんどおｋてこと。これも玲人だけどね。持つ者はいい友達だね

「分かった。んで管理局対策は？」

「ステルス」

「やっぱりか」

俺は玲人にそう言うと、屋上の階段から下に降りて、学校の裏口から逃げる。そして自分の家に帰り、ロストドライバーを調べ始めた

「なんだろうな・・・・電池っぽいものもないし・・・・未知のエネルギー源でも使ってるのか？」
俺はそう思いながらロストドライバーを腰につけ、メモリを入れないまま傾けてみるが、何も起こらない。そりゃそうでしょうね
♪～

「もしもし」

『おーい、お前の言う怪人のような反応があったぞ。あとバイクが完成したから』

「速いな」

『質量高速構築装置。データをこれに入れれば3秒で出来る。お前のうちの前に自動走行させておくから』

そう言って電話を切りやがった。俺は自分の家の玄関につくと、そこには赤く塗られたバイクがあった。俺はそれにまたがると、目的の場所まで急ぐ。それにしても早いな。俺は顔が知られるとやばいので走りながら変身することにした

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

「変身」

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

俺は仮面ライダージェノサイドに変身し、目的地に着き、ドーパン

トにバイクアタックをかます

「あっちょんぶりけ！！！」

え！？

「ああもううるさいうるさい！！！！！」

俺はバイクを止めてドーパントに蹴りを入れ、パンチをくらわせる。

バイクアタックのダメージが残っているらしく、反撃をしてこない。

「さっさと決めるぜ」

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！ＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ！！』

「ライダーパンチ」

俺はマキシマムをさっさと決めると、変身を解いてバイクに乗り、

帰宅した

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ４　欲・望・降・臨（前書き）

タイトルの通り

データ4　欲・望・降・臨

ｓｉｄｅ炎忌

「クソッ！！数が多すぎるぜ」

俺はただいま絶賛戦闘中だ。マスカレイド軍団が多すぎるんだぜ！！それにしても玲人はまだかよ！！あいつが欲望王の鎧を見つけたとかで玲人の援軍を待っているのだが。まったくもって玲人は肝心な時だけ遅い。

「まったくもう！！」

それにしても玲人は・・・・ん？なんだ、このバイクの音？

「やっほぉぉぉぉ！！！！欲望王の降臨だぜぇぇ！！」

玲人きやがった！！！おいしいところだけを持っていく奴だからな。腰に巻かれているのは変なベルトにその中に赤、黄色、緑のメダルが入っていて、それをスキャナーで読みこんだ。え、あの語句叫んじゃうのぉぉぉ！！！！

「変身！！」

『タカ！！トラ！！バッタ！！、タ・ト・バ！！タトバ、タ・ト・バ！！』

玲人はそう言ってスキャナーでメダルを読み込む。そして玲人の体を何かが包み込み、頭はタカのような頭、胴はトラのように腕に爪

がついている。そして足にはバッタのようなレッグに　なっている。
そして体の中心には上がタカ、中心がトラ、下がバッタの戦士

「仮面ライダーオーズ。よろしく」

「五月蠅いぞ、さっさとやれ」

そして俺と玲人は駆け出す
ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅレレレの玲人
作者殺すぞ
ｓｉｄｅ玲人
これでよろしい。俺と炎忌はマスカレイド軍団に走り、トラクローを展開する。そしてそのうち一体を切り裂き、タカのメダルを引き抜き、タカのメダルを青色の、シャチメダルに変える。さらにトラのメダルもゴリラのメダルに変える。これは頭部系コアメダルをタカに集約してみた。胴系コアメダルもトラに、レッグ系はバッタに集約した。やろうとしたら出来た

『シャチ！！ゴリラ！！バッタ！！』

これは仮面ライダーオーズ、亜種のシャゴリバだ。俺はシャチの頭から水流を放ち、マスカレイド軍団を後退させ、さらにゴリバゴーンを構える

「ロケットパンチ」

「おいおいおいおいおいおいおいおいおいおい！！！！マジ〇〇〇〇のパクリじゃねえかよ！！」

炎忌が突っ込んだ。飛んだゴリバゴーンはマスカレイドに当たり、通産１０体くらいだ。さらに俺は頭と胴のメダルを緑色に変える。これはコンボというらしい

『クワガタ！！カマキリ！！バッタ！！ガ～タガタガタキリバ！！ガタキリバ！！』

「何だよその歌」

「歌は気にしないでくれ」

俺はそういうとガタキリバの特殊能力、分身をし５０体に増えた。そしてそのままもう一回メダルを読み込む。

『スキャニングチャージ！！』

そしてマスカレイド軍団を眼前に５０人のガタキリバが一斉にジャンプした

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！ＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ！！』

「ライダージャンプ！！」

炎忌もガタキリバ軍団の中に混じった。そして、全員がマスカレイド軍団に向かいキックしながら急降下した

ガタキリバ軍団＋炎忌「セイヤァァァァァァァ！！！！」

そして全員一斉にマスカレイドにキックを放つと、マスカレイド軍

団は全滅した。

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「
「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「うぇーい！！
！」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」
」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」

「るさい」

５０人のガタキリバの叫びに耳をふさぐ炎忌だったぜ
ｓｉｄｅｏｕｔ

データ５　微・弱・電・波（前書き）

サブタイの意味はあまりなし
ちなみにＯＰは「裏切りの夕焼け」
ＥＤは狂愛　ｋｙｏａｉ

データ5　微・弱・電・波

ｓｉｄｅ炎忌

「変な電波ぁ？あんだよそれ」

「まあ、落ち着けってさ。飯は逃げないし」

俺は飯をかっこみながら玲人の話を聞いている。なんでも愛用のパソコン、ウルスピで電波検索をしていたところで見つかったらしい。しかもそこは有名な幽霊スポット、これは変だということで調べに行くことになった。零時も行くらしい。

「お前そういえば・・・」

「零時にライダーシステム作った」

「・・・・・何でもありだな」

俺はすごいあきれた。こんな奴らが友達の俺って一体なんなんだろうな。玲人はパソコンでまた何か作業していると、

「株価下がらせまくった♪」

「なにやっとるぅぅぅ！！！！」

こいつ・・・・・アホを超えている。

～つーわけで調査日だ～

「僕が神山零時です！！」

「我が弟よ何を言っている」

「何言ってんだよ零時」

いきなり自己紹介を始めた零時に流石に突っ込みをする玲人。こいつら、駄目だな

「いや、何となくやらなきゃいけないような気がして。んで、兄さんに炎忌さん。こんなところに電波の発信源があるんですか？」

零時が玲人に聞くと、玲人はパソコンを取り出す

「ここに発生源だ。管理局かもしれないから気をつけろよ零時。俺たちは・・このバカどもを一人残らずバラす」

俺たちの目の前にはいつのまにか管理局員達がいた。うん、イライラするんだよねこういうのさ

「さてと・・・零時だけさきにいってろ」

「分かりました！お気をつけて」

零時はそういうと走り出した。さて俺たちも・・・・

「やりますか」

「ああ」

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ零時

「たくもう・・・・兄さんたちがやっている間に僕も見つけ・・・あった」

あっけなく見つかったなと思いながら、その発生源まで近づくとそこには

「ロストロギアか。でも・・・なんか怨念っぽいのにじみ出て・・・・」

あ、すごーい、骸骨集団と鳥っぽい怪物がいる。だけどそれを回収しないとね。僕はカードデッキを目の前に突き出す。そうすると腰にベルト、「Ｖバックル」が装着される。

「変身」

僕はそこにカードデッキを入れ、仮面ライダーリュウガに変身する。そしてカードデッキから一枚のカードを引き抜き、それを左腕に装着されている、ブラックドラグバイザーにカードを装填する

『ＡＤＶＥＮＴ』

そしてドラグブラッカーを呼び出して骸骨集団を一気になぎ倒す

「次はこれですよ」

『ＳＴＲＩＫＥＶＥＮＴ』

『ＳＴＲＡＮＧＥＶＥＮＴ』

さらにストライクベントとストレンジベントを同時に発動し、右手にドラグクローを装備する。さらにストレンジベントで発動したカードを装填する

『ＴＲＩＣＫＶＥＮＴ』

ストレンジベントで現れたトリックベントを使用し、分身をする。そしてドラグクローでそのうち１体を殴り、さらによってきた複数の骸骨も足で蹴り倒し、圧倒している。

「そろそろおしまいだね」

そして僕はカードを装填する

『ＦＩＮＡＬＶＥＮＴ』

そしてドラグブラッカーが僕の周りを螺旋状に囲み、宙に浮く。そしてドラグブラッカーが吐く炎により硬化した骸骨集団めがけ、

「はぁぁぁぁ！！！！」

ドラゴンライダーキックを浴びせかけた。

「終わった終わった」

そしてロストロギアを手に取ると、そこには

「？？？カードデッキ？ブランクだしな・・・」
僕が持つリュウガのカードデッキに似ているが、龍の意匠がなく、ただの黒い箱だった
「とりあえず兄さんに持っていくか」
ｓｉｄｅｏｕｔ
ｓｉｄｅ炎忌
『スキャニングチャージ！！』
『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！ＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ！！』
「オクトパニッシュ！！」
「ライダーキック」
俺たちは管理局員に対して、玲人はシャウタコンボで、俺はジェノサイドマグナムでそれぞれ攻撃し、最後にまとめて必殺技でぶち殺したというわけ
「あ、終わったか」
「速かったな零時。もう終わったけど」
「我が弟よ、これが兄と炎忌の実力だ」
零時はＶバックルからカードを引き抜き変身を解く、玲人もオーズ

ドライバーを元に戻して変身を解き、俺もロストドライバーのメモリスロットを縦に戻し変身を解く。そして零時が取り出したのは、

「お前の持っているカードデッキに似ているな・・・後で調べよう」

「兄さん・・・笑いが怖いです」

うん、それよくわかる

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ5　微・弱・電・波（後書き）

玲人＆零時の紹介は次回載せるつもりです

データ６　神山玲人&神山零時のデータ

名前：神山玲人
性別：男
年齢：１６歳
魔力：無
デバイス：無
特殊所持物：コアメダル、オーズドライバー
説明：慈円炎忌の少ない友人でもあり、ジェノサイダーを作った。全次元世界の５人の一人に入るほどのハッキング力を持っている。さらにジェイル・スカエリッティをしのぐほどの科学力を個人で持っているため管理局から狙われている。魔力は無であり、リンカーコアも存在しない。彼単独でアルハザード、あるいは神の領域にも行けるといわれている。とある経緯で手に入れたコアメダルを３つのメダルにまとめるという荒業を見せる。
容姿：鏡音レンを白髪にして瞳の色を白色にしたらこうなる
所持メダル
タカ　１
クジャク　１
コンドル　１
ライオン　１
トラ　１
チーター　１
クワガタ　１
カマキリ　１
バッタ　１
サイ　１
ゴリラ　１
ゾウ　１

シャチ　１
ウナギ　１
タコ　１
コブラ　１
カメ　１
ワニ　１
プテラ　１
トリケラ　１
ティラノ　１
頭計コアはすべてタカに、胴系コアはトラ、脚系コアはバッタにまとめられている
名前：神山零時
性別：男
年齢：１５
魔力：無
デバイス：無
特殊所持物：リュウガのカードデッキ
説明：神山玲人の弟で、普通の中３。頭は兄並みに良く、顔がいいため女子からの人気がある。常に敬語っぽい口調で話すのは本人いわく「格好よさそうだから」らしい。レディファーストの精神で行動しているために、女子が困ればすぐ助ける。女子を泣かせた奴はフルボッコする。というめちゃくちゃである。しかし、女子でも人を泣かせれば許さない。筋は一応通すらしい。リュウガのカードデッキは玲人作製であり、ドラグブラッカーも疑似生命体である。ちなみにカードデッキの強度はオーズプトティラコンボのグランド・オブ・レイジを受けても逆に跳ね返すほど硬い。攻撃の特性も無効化できる。Ｖバックルはカードデッキを前に突き出すだけで現れる。さらにどこからでもミラーワールドへ入れる。トンデモと言っている。ドラグブラッカーは普通に食事と水があれば生きていける。
所持カード

ＡＤＶＥＮＴ
原作通りドラグブラッカーを呼び出す。７０００ＡＰと原作より割増
ＳＷＯＲＤＶＥＮＴ
ドラグセイバーを呼び出す。３０００ＡＰ
ＧＵＡＲＤＶＥＮＴ
ドラグシールドを呼び出す。３０００ＧＰ
ＳＴＲＩＫＥＶＥＮＴ
ドラグクローを呼び出す。３０００ＡＰ
ＡＣＣＥＬＥＲＡＴＯＲＶＥＮＴ
加速する。原作にはないカード。
ＳＴＲＡＮＧＥＶＥＮＴ
その場の状況に応じたカードになる
ＦＲＩＥＺＥＶＥＮＴ
相手を凍りつかせる。
ＦＩＮＡＬＶＥＮＴ
ドラグブラッカーが硬質化させる炎を相手に吐き、その相手にドラゴンライダーキックをする。８０００ＡＰ
サバイブのカードを一応あるらしい。
容姿：鏡音レンの髪を黒くし、瞳を青色にした感じ。男版ＢＲＳ？

データ7　ホテル・アグスタ（前書き）

あの事件とからみますが、機動六課はあまりというか出ません。そういう小説ですから

データ7　ホテル・アグスタ

ｓｉｄｅ炎忌

「レリック取引？」

「その裏にさ・・・・セルメダル１０００枚の取引があるんだ。セルメダルっつうのはコアメダルの劣化版みたいなもんさ」

しかし馬鹿に出来ないらしい。６枚くらいでＳＳＳオーバー行くらしいからな。塵の意地？まあいいや。それにしても・・・

「何故奪い取る？」

「兄さんの研究対象としてふさわしいからだそう・・・・・です」

零時・・・・お前、本当に苦労しているな。まあいいや、でもさ・・・チケットどうするのかな？やっぱり違法ルートだよね。俺らの場合

「そう思い違法に入手しました。タキシードもあるよ」

話が早すぎる！！もうちょい個人の人権無いの！？

「兄さん僕ｈ「美人いるかもしれないぞ？」行きます！！！ぜひ行かせてください！！！」

こいつもこいつで、乗せるの簡単すぎだろ・・・・・仕方ないし、それにうまい飯ありそうだし

～当日～

「玲人も以外と似あうんだな、タキシード」

「俺たちほど似合う高校生はいないぜ！！！」

「兄さん叫ばないでください。周りの、特に女性に迷惑です」

そして零時がキュピーン！！となる

「どうしｔ「あんな・・・・美人な女性がこの世に居るのか・・・・」やば」

「口説こう」

「「やめろ」」

零時には拳骨で許してやりホテル内へ行く。それにしても・・・・

（兄さん、あの人たちの落第点は）

（高町なのはっつう奴の魔法は砲撃魔法主体だからこんなところでは使用できない。あのフェイトとかいう女の魔法もしかり、それに隊長自ら行かないのもいただけないぜ）

（そうですか・・・一人の女の人としてみればとても美しいのですが）

（二人ともうるさいぞ、取引の時間までにばれたら元も子もないからな）

俺はそういうと眼を凝らす。零時はまた女を口説きに行っている。
ああ～またやぶれたな。こりないねぇ。ま、玲人が肩を叩いてきたな・・・

（炎忌、ガジェットがきているらしい。どうする？）

（作戦に支障がでる。機動六課のお方がやってくれるだろうから、ほっておけ）

（ああ・・・あともう一つ追加だ）

取引の品の追加？何故だ

（ファイズギア、カイザギア、デルタギアが追加された。デルタギアとファイズギアを奪ってデルタギアを壊すぞ）

（なんでそのデルタギアだけ壊すんだ？）

（あれは危険物だ。ファイズギアのほうは然るべき人物に渡す）

（おＫ）

とりあえず俺たちは一旦別れることにしたｓｉｄｅｏｕｔ

データ8　ホテル・アグスタ2（前書き）

続きだぜ・・・

データ8　ホテル・アグスタ2

ｓｉｄｅ炎忌

「あと何分？」

「あと１０分だ。零時、行くぞ」

「分かりましたよ・・・・イエス・レディース・ノータッチの精神に従い・・・」

れいし〝はさとりをひらいたようた〝どうする？

眼を覚まさせる　⇒そのままにしておく　ネオアーム（ｒｙ
きゅう

「そのままにしておけ」

「ああ・・・」

「何ですか？」

「「至って正常だなおい！？」」

そして俺たちは取引場所へと向かった。

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ第三者

～取引場所～

「おい！！！ガジェットが攻めてくるらしいぞ！！」

「速く取引を終わらせてトンズラするぞ！！」

「こんなのとはオサラバだ！！」

そして、２回目に言葉を発した男の首がはねる。そこには

「遅すぎますよ？」

リュウガに変身していた零時がドラグセイバーを握りながら言っていた。そして残りの２人の後ろに炎忌がいつの間にかファイズ、カイザ、デルタの３つのドライバーに加え、帝王のベルトを奪い取り、１人の男は玲人に首の骨を折られ、最後の一人は心臓を炎忌に正拳突きで突かれて絶命した

「これがファイズギア」

「カイザギア・・・か」

「デルタギアですか」

俺たちはどうやらやることが決まったようだ。俺はキーで５・５・５とうち、折りたたむ。零時は「変身」と言い、玲人も何かの数字を撃ち込んだようだ

『『『ｓｔａｎｄｂｙ』』』

「「「変身！！」」」

『『『ｃｏｍｐｌｅｔｅ』』』

そして俺、玲人、零時をそれぞれ、赤、黄色、蒼の光が包み込み、そこに立っていたのはｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ第三者視点

炎忌が変身した仮面ライダーファイズ、玲人が変身した仮面ライダーカイザ、零時が変身した仮面ライダーデルタがたっていた。このツールはオルフェノクでなくても変身できるようだ

「さて・・・突破するぞ」

「ええ、長居は無用です」

「吹っ飛ばす！！」

そして玲人、炎忌はそれぞれのツールに１０６と入れ、零時はｆｉｒｅと音声入力する

『『『ｂｕｒｓｔｍｏｄｅ』』』

そしてそれぞれの連射された光弾でほとんどのものが吹っ飛び、そこから、ファイズ、カイザ、デルタの３人が抜けていき、変身を解く

「しっくりきませんね」

そう言って玲人に投げ返し、カードデッキを前に突き出す零時。零時の腰にはＶバックルが装着され、そこにカードデッキを差し込み、リュウガへと変身する

「俺もパス」
炎忌もファイズギアを投げ返し、ロストドライバーとジェノサイドのメモリを取り出す

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

「変身」

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

そして仮面ライダージェノサイドに変身する。

「やはり適合はするものの・・・・体に合わないか・・・・まあいい、エネルギーを取り出すだけ取り出して捨てるか」

そしてオーズドライバー＆コアメダルを玲人は取り出し

『タカ！トラ！バッタ！！タ・ト・バ！！タトバタ・ト・バ！！』

玲人はオーズ・タトバコンボに変身するそして３人は走ってその場を離脱した

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ9　転・生・兄・弟（前書き）

はい、すぐやられますけどね。転生者

データ9　転・生・兄・弟

ｓｉｄｅ炎忌

・・・・・・・・・なんか変な気配が朝からする。まるでつけられているような・・・視線を感じるような・・・・・・俺はデバイスを起動させるタイミングを考えながら人気のない場所へ誘導してみる。案の定まだつけてきて、立ち止まってみた

「・・・・・おい、出てこい」

「兄ちゃん、あいつ転生者かな？」

「当たり前ｄ「俺はあいにく前世の記憶なんかなくてね」っち、始末するぞ」

へぇ・・・・なら俺も

「殺らせてもらおうかね。セットアップ」

俺はテンペスタを起動させてバリアジャケットを纏う。

「焔剣（えんけん）」

焔で刀身が出来ている刀、焔剣を振り回し、相手に斬りかかる

「甘いね、時を操る程度の能力」

そして、次の瞬間には後に回られてたたき落とされた

「がはぁ！！今のは一体！？」

「時を止めて移動した・・兄ちゃん、次だよ」

「おk、境界を操る程度の能力」

そして横からは、電車・・・電車！？

「があ゛あああああ！！！！！」

電車で轢かれるとは・・・いてぇ。

「毒を操る程度の能力」

さらに変な気体を吸い込むと、とたんに体が重くなった

「うぅ・・・・重すぎる・・・・」

「死ね、雷を操る程度の能力」

「か゛あ゛あ！！！！」

畜生・・・・でたらめだ・・・一撃が致命的なダメージを与えやがるぜ・・・・・何てね

「焔分身だぜ・・・死ね」

そして一人を突きさすが・・・死なずに再生した。何故！！！？？？さらにもう一人を突きさすとそいつも再生した！？！？

「死なない程度の能力だよね、兄ちゃん」

「ああ・・・死なないのさ俺たちは。だから・・・死ね」

「矛盾している・・・・「炎忌を殺させるわけにはいかない」玲人！！」

流石だねぇ・・・俺の友達は

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ玲人

「へぇ・・・かわいがってくれたじゃない」

俺はオーズドライバーに紫のコアメダルを入れ、オースキャナーでスキャンする

『プテラ！！トリケラ！！ティラノ！！プトティラのザウル～ス』

そして一人に近づいて一気に切り裂く

「こんなのすぐ再生・・・・しない！？！？」

「兄ちゃん！？！？」

「再生するのなら・・・無に帰せばいい」

俺は静かにそう言うと、メダガブリューに入れ、ティラノの頭部を模した物でセルメダルを噛み砕くようにする

『ゴックン！！プットティラノヒッサ〜ツ！！』

「死ね」

そして一人のほうを倒すと、もう一人のほうに振り向く

「ぁ・・・・ああいやだぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

『スキャニングチャージ！！』

「死ね・・・・炎忌・・俺の親友を殺そうとした罪は、重いぜ？」

トリケラのワインドスティンガーで貫きプテラのエクスターナルフィンの冷気で凍らせ、そして、ティラノのテイルディバイダーを尻尾のようにしたたき壊した

「コンティニューは、出来ないようになっております」

そして変身を解き、炎忌を担いで家へと帰った

s·ideout

データ１０　全・力・全・開（前書き）

機動六課は出ないよ！！そういう小説だし。出るかも・・・？

データ10　全・力・全・開

ｓｉｄｅ炎忌

「ひどい目にあった」

「災難ですね、炎忌さんも・・・・僕が殺りたかった」

「物騒な事言うな・・・・六課の盗聴しているんだから・・・」

何気に一番物騒な事を言う玲人、何故盗聴する・・・・ｏｒｚ

『ねぇ・・・私の教導、そんなに間違ってる？』

そこには高町なのはらしき人物がオレンジ髪の女の子に対して一方的な喧嘩をしているところだった

「おぉ・・・・繋がったで」

「静かにしろ炎忌」

「ハイ」

ん？零時がプルプル震えているが・・・まさか！！？！？？！あいつあの場に乱入してあーだこーだする気だぞ！

「兄さん、ミラーワールド有効活用します」

「ＯＫ」

「許可出すなぁぁぁ！！！」

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ零時

高町なのはに介入する・・・・・次いでに管理局にでも釘を刺しておきますか。ライドシューターでミラーワールドを突っ走っておりますが・・・あ、もうついた。僕はミラーワールドでの現場に行くと、そこから現実世界へと戻ります

「ついたついた・・・・貴女達の会話、さっき聞いてたんですよ」

「そう・・・あなたから頭、冷やそっか」

「女性には手を上げたくありませんが・・・仕方ないですね」

『ＡＤＶＥＮＴ』

・・・・・

そしてドラグブラッカーを呼び出すと、その上に乗り飛翔する、そしてあのカードを取り出すと、腰についたブラックドラグライザーツバイの口に装填する

『ＳＵＲＶＩＶＥ』

そして、僕の体に後付けされたような漆黒の装甲がつき、ドラグブラッカーもブラックドラグランザーへと進化した

「さてと・・・・本気を出すか」

口調が変わったのは、俺の本気を出すときにしかでない素の面だ。いつもは敬語っぽいものを使ってごまかしているが本来はこちらのほうなのだ

「手前、さっきのボコリが教導だとか言ってたよな・・・」

「私の教導に他人の貴方が難癖つけるのかな・・・・？」

気迫がすごいねぇ・・・・でもさぁ

「あんな一方的なのが教導と言えるならさ・・・・・お前をここで葬る」

そしてブラックドラグライザーツバイの後頭部にあるハンマーを引き、そこにカードを装填する

『ＳＨＯＯＴＶＥＮＴ』

そして一気に近づきロックオンをする。そしてもう一度離れる

「そんな攻撃じゃ・・・意味ないよ、アクセルシューター」

そしてこちらへ魔力弾を一気に撃ち込むが・・・動きがすこし荒いような気がします。

「ブラッカー、やってやれ」

構わずシュートベントのもう一撃、ブラックドラグランザーの火球を撃ち込む。しかしすぐに避けられ

る、がロックオンしているので追尾してくるが、

「ディバインバスター！！」

バカでかい砲撃でかき消された。非殺傷設定じゃ威力が足りない！！

「っち、接近戦に持ち込むしかねえか」

『ＳＷＯＲＤＶＥＮＴ』

ブラックドラグライザーツバイの本体から、短剣が展開される。そしてブラックドラグランザーで接近し斬りかかる。しかしそこはサイズの差というものが出てくる。相手は小回りが聞くが、こちらはでかすぎて効かない。ま、これを使えばいいか

『ＷＩＮＧＶＥＮＴ』

そして背中にはブースターのようなものが付き、飛行可能になる。非殺傷設定にしてあるが。本気で行くぜ

「なっ・・・・」

「甘い甘い甘いんだよぉっぉ！！！！！」

そして五連続で切り裂き、蹴り倒す。そしてブラッカーの火球をぶつける。名前が長いからサバイブ使用前のブラッカーという名前で呼んでいる。もろに食らったし・・・そろそろ決める・・・

「スターライト・・・・」

「仕方ない！！」

「ブレイカー！！！！」

『ＧＵＡＲＤＶＥＮＴ』

そして黒い炎の壁で防ぐが、耐えきれないらしく、すぐに砕け散る。何とか回避をするが、少しダメージを受けてしまった。

「仕方ない・・・・使いたくなかったが、お前がそこまでやるのだから」

『ＦＩＮＡＬＶＥＮＴ』

「はぁぁぁぁぁ！！！」

ブラッカーの上に乗り、バイクモードに変形させて、空中に黒い道を展開してそこを走り黒火球をどんどん撃ち込む。そして煙を上げ、そのすきに高町に硬質化させる炎を当てた

「オラァァ！！！！」

車体を高町に当てると、そのままサバイブ体を解いて地面に着地し、ブラッカーを普通の状態に戻し、さらに

『ＳＴＲＡＮＧＥＶＥＮＴ』

『ＢＩＮＤＶＥＮＴ』

拘束する。さらに管理局に

「管理局さん・・・・？これが僕たちの戦力です。今日は非殺傷設定で戦いましたが戦場では、本気で殺しに行きますのでご注意を。それがいやならば僕たち、神山玲人の所在を探してはだめです・・・命が惜しくないのならどうぞ、探すなりなんなりしてください。生きて帰れる保証はありませんけどね」
そしてミラーワールドから自分の家へと戻る

～玲人宅～

「終わった」

「玲人あんな宣戦布告並みの事して大丈夫なのかよ？零時は素が出てたし」

「大丈夫だよ・・・」

そう、あんな腐っている組織に負けるはず、ないじゃないですか？
ｓｉｄｅｏｕｔ

データ１０　全・力・全・開（後書き）

文才がなくて本当にすみません、原作知らなくて本当にすみません

データ11　青・空・既・死（前書き）

久々で済みません。ブレイドのオリジナル変身の仕方が思い付いて
1、ラウズアブソーバーのQのカードを入れる場所にスペードのA
　チェンジビートルを井入れて変身する。このときの音声は『ｃｈａｎｇｅｕｐ』
2、キングフォーム・ジャックフォームの強化は同じ。
3、ブレイラウザーはカード収納機構がオミットされている。
4、必殺技はブレイラウザーにキングのカードをラウズすることにより、キングブレイク。Ｊのカードをラウズすると、ジャックキックを発動できる。なぜＡＰチャージの技が発動しないのかというと・・・ＡＰという概念がないので。玲人作のラウズアブソーバーは・・・（汗）
5キングフォームの2～10のカードはブレイラウザー・オミットの中に収納されている。
・・・・・・・・・無理やりじゃねえか！！修正したのに

データ11　青・空・既・死

ｓｉｄｅ零時
ひさびさに殺る気を出してしまいましたね・・・気をつけなくては。あんな女性を殺してしまったら男として顔が死にます！！まあそれはいいとして・・・さっきからつけられていますね。裏路地に誘い込みますか。そして裏路地まで行くと、案の定ついてきた。立ち止まっても動いてきて、不意に背中に誰かがぶつかった

「・・・さっきからつけていましたね。ストーカーですか？」

そう言って振り向くと・・・・・オンドゥルラギッタンディスカー！！！？！？！？こんな美人が！？！？！？ストーキング！？！？！？ナンデストー！！！？？？

「ふぇぇ！？」

「いやいやいや！急に声をかけて済みませんでした」
平常心平常心平常心。それにしてもこんな美人につけられ・・・・
まさか

「もしかして・・・管理局に命令されましたか？」

「！？」

図星でしたか・・・・やはり糞ですね。あの管理局は！！こんな美しい女性を実力もなさそうなのに危険な任務に！！！最低最悪の組織ですね

「動機とかは言わなくてもいいですけど・・・・管理局に弱みとか握られていそうですね」

「はい・・・・実は・・・・」

ふむふむ・・・・読者の皆様には教えられませんね。プライバシーですから

「なるほど、復讐したくありませんか？自分をこき使う管理局に」

「・・・・・・・・・・・・・・」

「選ぶのはあなたの自由です。しかし、護身用にこれを渡しておきます」

僕はそう言ってアブソーバー・・・・仮面ライダーブレイドに変身できる装置を渡す。本来はブレイバックルが必要なのですが、これはその必要をなくしたものです。

「決心がついたなら、ここに来てください」

僕が提示したのは・・・管理局支部がある世界の一つ。ここは近々つぶそうと思ったんですけどね・・・

まあいいですか。おっと、忘れていました

「貴女の名前は？」

「私の名前は・・・・・・結城奏です」

「結城さんですか・・・いい名前ですね。では、決心がついたら後

日」
そう言って僕はその場から離れました。できれば味方になってほしいですね。でもアブソーバーを持たせておけばある程度護身はできるはずです。あ、ちなみに使用の仕方の解説の紙も同封しましたよ。だって女性が困ってしまっては元も子もありませんから！！
ｓｉｄｅｏｕｔ

データ12　剣・王・降・臨

ｓｉｄｅ零時

「で、渡しちゃったのかよ！？」

「美人なのでつい」

「管理局にばれなきゃいいが・・・いざとなれば俺が処分するからいい。んで」

兄さんが一枚のカードを取り出す・・・・それはタロットカードで、英語で運命と書かれていた。どういう意味でしょうか？兄さんはこういうのを出すのは珍しいですね

「俺らはジェイル・スカエリッティに協力する。あとスカエリッティ宅にはすごいかわいい女の子が１１人くらいいるとかいないとか」

「どうぞお願いします！！」

ナンデスト！！！オンドゥルララ・・・・・またオンドゥルってしまった。猛省しなければ・・・

「では、明日は少し遠出をしますので」

「分かった」

そう言って僕は自分の部屋へと戻り、寝た

～次の日～

「やはり・・・管理局に弱みを握られていたら駄目ですか・・」

僕はそう思い、一人で決行しようと思いましたが。不意に足音がし、身構えるとそこには結城奏さんがいました。やはり来ましたか・・

「す・・・すみません。許可が下りるのに手間取ったもので・・・」

「いいですよ？これからやるんですから」

そして結城さんのほうを向くと・・・・ずいぶんと変わった眼しやがってるな・・・まさかとは思うが

「結城さん。まさか？」

「はい・・・・脅していた管理局員２０名を少々、殺しました」

やっぱりか・・・・恐ろしい。でもかわいい！！！ヤンデレ最高★・・・・読者の皆様すいませんでしたぁぁぁぁ！！！性癖もろだししてぇぇぇ！！！！

「零時さん？なんか後悔してますね。顔が」

「すみません・・・・さて、つぶしてお茶とでもしゃれこみましょうか」

そして僕はカードデッキ、結城さんはラウズアブソーバーのインサートリーダーにＡのカードをいれる

「「変身」」

『ｃｈａｎｇｅｕｐ』

そして僕は仮面ライダーリュウガ、結城さんのほうは仮面ライダーブレイドに変身し、ブレイラウザーを構える。

『ＳＷＯＲＤＶＥＮＴ』

「さて・・・行きましょうか。血塗れの剣、ブライド」

「へ？ブレイドでしたよね・・・このライダーの名前」

「ブラッディとブレイドをかけたんです」

そして先に突入し、カードを読み込む

『ＡＤＶＥＮＴ』

そしてドラグブラッカーを呼び出し、現れた局員を尾でつきさし殺す。さらにその死体を他の局員になげつけて、結城さんのブレイラウザーが貫く。それにしてもたじろいだり、気持ち悪くなったりしませんね・・・壊れてしまったのでしょうか？心が

「はぁ！！」

結城さんはすごく強いです。戦闘訓練を積んでいない人とは思えませんね。まあ、結城さんに任せておけば大丈夫でしょう。

「結城さん、僕は左から行きますので、右をお願いします！！」
ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ結城

「結城さん、僕は左から行きますので、右をお願いします！！」

そう言うと零時さんは突如左側の道へと言ってしまった。ここをまかせてくれるのかな？でも、これから
楽しい楽しい殺戮タイムだしね？邪魔されたくないよ。ボクはね

「Ｉｔ' ｓ　ａ　ｓｈｏｗｔｉｍｅ」
そしてボクは一人を貫いてから頭まで袈裟に切り裂き、脳髄を露出させる。それをもう一人に投げつけ、脳髄もろともう一人に貫く。魔力弾が当たるがまったくもってダメージがこないので、気にせずラウズアブソーバーのスラッシュリーダーにキングのカードをラウズする

『Ｅｖｏｌｕｔｉｏｎ　ｋｉｎｇ』

そして１３枚のアンデットと融合し・・・・ブレイド・キングフォームへと進化したボクの姿を哀れ、管理局員はおびえている。

「情けないなぁ・・・楽しみはこれからだよ？」

そう・・・・・・これからだよ？

データ13　殺・戮・少・女

ｓｉｄｅ零時

「結城さんに任せたけど・・・・大丈夫ですかね」

僕は左の道へと向かったが、誰も居なかった。いや、いましたけど叫ぶ前に全員殺しておきました。たとえ女性でも・・・・俺の邪魔をするなら消す

「結城さんは・・・うぅ・・・・」

口の奥から何かがこみ上げるのを必死でこらえながら、その光景を見ていた。凄惨すぎる。誰かの脳髄が露出し、口からしんｚ（以下自主規制）

「結城・・・さん？」

「か・・・みやま・・さん・・・・？」

どうやら結城さんがこれをやったようだ。キングフォームの鎧や剣には肉片がついていて、むごさをさらに強調させていた。僕は変身を解くと結城さんのほうまで近づいた。結城さんも変身を解いた。そしてＡ・Ｑ・Ｋのカードをラウズアブソーバーにしまうと、不意によろけた

「お・・・っと、大丈夫ですか？」

「少し疲れて・・・・すみません」

「いや・・むしろ初めてでここまでやるほうが・・・はっきりいって異常です」

僕は思ったことをそのまま口にするが、結城さんはそれほど驚いていなく、むしろ口に少し笑いを浮かべた。それにしても・・・・すごい鬱憤が溜まっていたのか。異常性が高いのか。謎ですね・・・それにしても今の構図最高ですよ!!!背中におぶっているんですよ!!!女性を!!!これが熱狂しないわけ・・・すみません

「重いんだったら・・・おりますけど」

「いえいえいえ!!大丈夫ですよ・・・・」

そうして僕らは玲人兄さんの部屋まで戻った

～玲人の部屋～

「そっちのアンタが結城奏か・・・・」

「どうも・・・結城奏です」

兄さんに結城さんを紹介すると、兄さんは眼の奥のハイライトが少し変わった。あれは・・・興味を持った時

「ああ・・・お前は今日から俺の仲間であり、俺の家族だ」

「ふぇ!?」

「兄さん・・・ま、家の居候としていてくれればいいよ」

「というわけで、部屋に案内しろ零時。お前の部屋と同じはなしな」
そう言うと僕は結城さんを部屋へと連れて行った。結城さんはすごく驚いた顔をしていた。なんでしょうね？

「あの・・えっと・・・ありがとうございます」

「いや・・・・・・遠慮なく何か言ってくださいよ？」

「じゃあ・・・・生活用品を買いに行きたいんですけど・・・明日くらい」

「いいですよ」

やほぉぉぉぉぉぉ！！！！！明日が楽しみだぜぇぇぇ！！！！！しかし・・・・・俺は知らんかった、その行為が不幸の引き金となることが
ｓｉｄｅｏｕｔ

結城奏のデータ

結城奏：ゆうきかなで
性別：女
年齢：１５
容姿：灼眼のシャナのシャナの容姿を髪を蒼みがかかった黒色で、瞳は蒼色
特殊所持物：ラウズアブソーバー、ラウズカード、スペードスート１３枚
説明：管理局に弱みを握られ、強制的に神山零時の尾行をさせられていた。零時に見つかってから、ブレイドとなるが、あまりにも人を殺戮しつくすので、ブラッディブレイド・・・ブライドの名前を与えられる。本来はブレイドだが結城は今後、ブライドと名乗るらしい。実は転生者だが、１歳ごろ転生したので実質転生者ではない。
性格：常におどおどしている。しかし性格が変わると人を殺すのを楽しみとしている
ラウズアブソーバーの説明：ラウズアブソーバーのインサートリーダーにスペードのＡを入れることで変身する。音声は「ｃｈａｎｇｅｕｐ」。ブレイラウザーとブレイバックルの機構はオミットされている。ブレイラウザーの場合はラウズするのにＪとＫのカードしか受け付けない。しかもＡＰという概念がないので、無限使用が出来る。体力の続く限り。ジャックのカードをラウズするとジャックキック、キングのカードをラウズするとキングブレイクが発動する。Ａ・Ｊ・Ｑ・Ｋ以外のスペードのカードはブライラウザー・オミットの中に収納されている。ジャックフォーム・キングフォームへの強化は普通どおり。
魔力レベル：Ｂ
デバイス：なし
以上です

結城「あの・・・ありがとうございます」
零時「かわいい！！！」
霊宮「というわけでこれからもよろしくお願いします」

データ１４　機・動・六・課（前書き）

機動六課の休日とリンクしています。スバル＆ティアナと出会う。あとヴィヴィオ、ついに玲人が原作ブレイク。炎忌の胃の運命はいかに？零時不幸、奏ある意味やばい・・・・・炎忌＆奏は多分嘘。すみません

データ１４　機・動・六・課

ｓｉｄｅ零時

「すごいところですね！」

「ええ、クラナガンでしたっけ」

傍から見ればカップル。うぇい。まあいいけどね。今日来たのは生活用品、衣料品、ｅｔｃ・・・・という

わけである。割愛したのはすみません。ちなみに黒色のバイク・・・ブルースペイダーと言うバイクの青色の部分を黒くした、ダークスペイダーという奏さん専用バイクを運転していきました。僕のバイクですか？ライドシューターですよ。だからないんです

「まずはとりあえず・・・・生活用品ですね」

「はい、迷いそうですね」

「といいながら何で僕の手を握ｔ「・・・・（うるうる）」はい、分かりました」

というわけでまずは生活用品！！

「これくらいがちょうどいいですかね？」

「そうですね・・・でもあれもいいかも」

いろいろ買い・・・（合計１万円くらい。でかい箪笥とかベッドと

かは玲人兄さんが用意）し・・・

「意外と可愛い服選ぶセンス無いような気が・・・」

「いいんですよ！！」

服がやばかった（白色Ｔシャツで、前の中心に『ＧＯＫＵＤＯＵ』と書かれていた。女の子はそういうの選ばないと思います。ガ○ダムとかインフ○○○トストラ○スとか侵○！イカ○！とか全部却下しましたが。僕も好きですよ？ガ○ダムとか侵○！イカ○！は）

～零時が行く先には女の子がいますよ！！～

「テロップ直せ」

「誰に行ったんですか？」

僕たちはアイス屋に来ていたが・・・・ここで奏さんがふと、右を向いていた

「誰ですか？」

「機動六課の人です」

まずいですね・・・・ここは適当に煙に巻いて逃げるしかないですか・・・ま、かわいいからゆｒ

「あ、奏ちゃんだよ！！ティア！」

前言撤回・・・逃げたいィィっぃい！！！！！！！女性にあって逃げたいと思ったの俺初めて！

「あ、奏じゃん。久しぶり」

「どうも・・・」

やべ・・・クリアーベント欲しい、いやむしろ使いたい

「隣の人誰？彼氏だったりして！」

「違いますよ・・・私と零時さんはｈ「いやいやいやいやいや！！！違うからぁぁ！！！！」ッチ・・・」

怖い、マジこの子怖い。恐ろしい。

「神山零時です。どうも」

幾分か声を変えたんですけどね、低めに、少しだけ。青色の髪の人は気付いていないようですけど、オレンジ色の髪の人・・・ティアさん？でしたっけ。この人は少し気付いているようですね

「なんか零時さんとどこかで会ったような気がするんだけど？」

「ティアさん？でしたっけ。それはないと思いますけど」

うん、あの時の子か・・・・・切羽詰まっていて見ていなかったけれど・・美人です！！

「私はスバル・ナカジマです。よろしくおねがいします！」

「ティアナ・ランスターよ、よろしくね」

「ええっと・・・中島スバルさんにティアナさんでしたっけ？こちらこそよろしくおねがいします」

「違います！！スバル・ナカジマです！」

ありゃりゃ・・・間違えてしまったようですね。そして・・携帯の着メロが流れ出した。この曲名は確か、『リリリリ★バーニングナイト』という曲でしたね

「はい・・・なんだ兄さん。ええ・・・分かりました。せっかくの休日ですのに・・分かりましたよ・・では後で」

そして携帯の通話を切ると、よっこらせ、と椅子から立つ。

「奏さん、急用が入ったようです」

「そうですか、すみません・・スバルさんにティアナさん」

そして荷物を持つと、席から離れる。あ、忘れてた

「アイスの代金、置いておきますね」

「あ、ありがとうございます！」

「なんかもう・・・本当にすみません」

スバルさんが目をらんらんと輝かせて言い、ティアナさんが頭を押さえながら言った。

「ではこれで」

「さようなら・・・（次に会うときは敵ですね、すみません）」

そしてダークスペイダーまで戻ると、サイドカーに荷物を積んでおき、奏さんに任せておき、頼まれたこと・・・

ジェイル・スカエリッティのアジトから脱走した聖王のクローン確保に動いた

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ１４　機・動・六・課（後書き）

スバルとティアナの口調分からんかった・・・二次創作で保管していたが

データ15　複・製・少・女　前篇（前書き）

今回から零時がしばらく主役！！！リリカルなのは無印に零時介入してめちゃくちゃするぜぇ！！！（一話だけだけど。しかもリリカルなのはｔｈｅｍｏｖｉｅｆｉｒｓｔだし）
を修正したぜ！！

データ15　複・製・少・女　前篇

ｓｉｄｅ零時

「え～と、どこかな・・・聖王のクローンちゃんは」

僕が少し下水道を歩いていると、それらしき子供があるいｋ・・・・なんだルーテシア&アギトじゃん・・・彼女たちも探しているのかな？それに・・・どうやらしばらく帰れそうにないみたいですね・・・

「あ・・・零時・・・・あなたの兄さんのおかげで、母さん目覚めた・・・・」

「お！零時じゃねぇか！！！久しぶりだな！！」

「久しぶりですね・・・・ルーテシアさんにアギトさん」

家の兄さんがスカさんにＯ★ＨＡ★ＮＡ★ＳＨＩとＯ★ＮＥ★ＧＡ★Ｉをしてルーテシアさんのお母さんのメガーヌさんを目覚めさせたんです。まあいいとして・・・・見つからない

「見つかりませんね。六課に見つかったら厄介ですし」

「うん・・・・」

とりあえず行きますか

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ奏

「玲人さんも・・・・お楽しみタイムを邪魔するなんてひどいですね・・・・いいとして、バイク運転するのって自信ないんですよね・・・」

ボクは正直いってバイクは免許は持っているけれど運転したことはあまりない。世の中で言うペーパードライバーってやつです

「ま、いいか・・・・」

ダークスペイダーにまたがると、エンジンをかけて少しすると走りだした。行った道を戻り、今は自分の家となった零時さんの家へと向かう。零時さんの家は日ごろから炎忌さんを泊まらせていたこともあってか居候に寛容的だ。零時さんの両親もすごい優しいし・・・・・ボクの本当の家族よりも自分の家族のような気がする。

「ボクの親は・・・・ひどかったからね」

ボクの親は、常日頃からボクに虐待をしてきた。挙句の果てには殺されかけたことも数えるには両手の指では足りない。なぜか怨まれていた。何故かは知っている。ボクの家は魔導師の名家で、跡取りには男のほうが有利だったんだ。でも、男の子は生まれてすぐに死んで、代りにボクが生まれた。でもリンカーコアが僕にはなくて、役立たずや落ちこぼれなど罵倒されて成長した。成長する過程で犯罪や人殺しなんて普通にやっていた。死体から金を奪い取り、生計を立てる日々・・・・・それが管理局にばれてしまいこき使われていたんだ

「そう言うと、零時さんにあったのはキセキなんだ・・・」

と、僕は思った。なら、零時さんのために何か、しようかな・・・・

料理とか

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ16　複・製・少・女　後編

ｓｉｄｅ零時

「お～い」

探しているが。Ｉ★ＮＡ★Ｉ★ＺＥ！！ちなみに俺ロリコンじゃないからね？おい今ロリコンって言った作者の友達誰だ！？ヲレハクサマヲムッコロス！！あ・・・・オンドゥルってしまったぜ・・・・猛省せねば。そういえばナンバーズの誰かに王蛇のカードデッキ上げなきゃな・・・なにって兄さんからに決まっているジャマイカ！！

「変身しとこう」

とりあえずリュウガに変身。そして一枚のカードを取り出し読み込む

『ＳＷＯＲＤＶＥＮＴ』

武装。近距離戦闘が持ち味なので。あ～あ、美人が歩いてこな・・・・

「あ・・・・失礼しました」

「はい・・・・って軽くまとめないでください！？」

ぁ、美人。え～と・・・中島スバルにティアナさん？にショタとロリ。そして美人！！！なんて幸運なんだろう！！

「そこのｂ「なにやってるの・・・？」すみませんもう調子乗らな

いからガリューのアレ向けるのやめて
くださいマジでお願いします」

どうやら見かねてルーテシアが来たようだ。うん、サバイブですね。
サバイブのカードを取り出すと、召喚機がドラグバイザーからドラ
グバイザーツバイに変化した

『ＳＵＲＶＩＶＥ』

「やりあおうぜ？」

そして戦闘が開始した・・・・

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ玲人

「へぇ～」

俺は聖王教会にハッキングして情報を探ると、ずいぶんと面白いも
のを見た

―旧き結晶と無限の欲望交わりし時―

―死せる王の下　聖地より彼の翼は蘇る―

―死者は踊り　大地の法の塔は虚しく焼け落ち―

―それを先駆けに　幾多の海を守りし法の船は地に落ちる―

だったのだが、その予言にさらに追加されたものがある

―旧き結晶と無限の欲望交わりし時―

―死せる王の下　聖地より彼の翼は蘇る―
―死者は踊り　大地の法の塔は虚しく焼け落ちる―
―欲望の王を超える欲望が生まれし時―
―究極の闇と闇を纏いし神が復活する―
―殺戮者達と進化した人間が闇を倒す―
―しかし　世界に異形達が進軍し　世界を壊す―
―それを先駆けに　幾多の海を守りし法の船は地に落ち―
―やがて世界に　終焉の鐘が鳴るであろう―

「めちゃくちゃだ・・・・欲望の王は俺、殺戮者は炎忌、達とつくのは奏に零時か」

進化した人間・・・・あいつのことか

「炎忌、俺、零時、奏、光月彰一・・・・」

そう・・・・終焉の鐘・・・・・・あのコアメダルを覚醒させないためにも

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ零時

「回収・・・・・はいいけどさぁ・・・・ルーテシア」

「・・・・なに」

「うわあああああああん！！！！！」

「どうやって小さい子供あやせばいいんだ！？」

「・・・分からない」

いやマジでどうしよう・・・・スカさんの胃もたれがまた進む・・・・スカさん大丈夫かな？メガーヌさんも居るし

「よし、お前の母親に相談だ。マジデ」

「・・・うん、頭が痛くなってきた」

俺はルーテシアの転移魔法でスカさん宅まで来た。この家は主要な場所は普通の家だ。そして・・・

「あ、零時じゃないッスか～」

「あ、ウェンディじゃないですか？ちょうどいいですしこれ上げます」

王蛇のカードデッキをわたす。契約モンスターがベノスネーカーしかいない代わりに、ガードベントとストレンジベントとフリーズベントとサバイブ入れてあるからな～チート乙ですｗｗｗ

「？これなんスか？」

「カードデッキ、使い方教えてやるよ・・・」

いやエリアルボード展開しないで連れ去るなウェンディィィィ！！！！！！

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ16　複・製・少・女　後編（後書き）

柄に合わず伏線を張りました。全部回収します

データ17　進・化・人・類（前書き）

進化した人類・・・・・ライダーファンの皆さまなら分かる・・・・・
かも

データ17　進・化・人・類

ｓｉｄｅ玲人

「もしもし・・・彰一か？」

『何だ玲人か・・・・んで、お前から連絡とはな・・・』

「彰一、ミッドチルダに来い・・・お前の出番だ」

『分かった』

俺は彰一の言葉を聞いてから連絡を切った。
光月彰一・・・・仮面ライダーアギト。進化した人類とでも言うべき存在。奴と出会ったのは・・・管理外世界の一つだった。アルハザードへ行った直後に訪れた

『お前は？俺は神山玲人』

『ああ、僕は光月彰一だ。よろしくな』

俺たちはそうして出会い、今に至るわけだ。あの予言の進化した人類というのは光月彰一だと俺は考えた。さらに俺が開発したライダーシステムにライダーズギア、そして聖夜の扱うガイアメモリ・・・・あれを使えばナンバーズ強化・・・さらに副作用をなくせばいい・・・・ならライダーズギアは除外だ。なら・・・龍騎とオーディンのカードデッキは伝家の宝刀だな・・・・

「玲人、なんか玲人さんに会いたいって人がいるっスよ～」

何故ウェンディが俺の家に居るのかは気にしないでくれ

「お・・・きたのか」

俺が出迎えに行くと、そこには、完全学生の少年がいた

「何故その服？」

「いや・・・この服しかなくて・・・・久しぶりだな」

「いや・・・・2か月ほどしかたっていないけどな・・・・読んだのはこういう理由があった」

俺は彰一に予言の説明をする。案の定、彰一は驚いた。さらにそのあとに変わった予言の内容を説明すると、有り得ないという表情でいた。

「分かった。俺もしばらくはミッドに居るから」

「よろしく頼むぜ」

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ17　進・化・人・類（後書き）

光月彰一　男　１６歳
容姿：とあるの上条当麻そのまんま
詳しくは次回で

光月彰一のデータ

光月彰一
性別：男
年齢：１６
容姿：上条当麻のまんま。服もそのまま
能力：仮面ライダーアギトへの変身能力
説明：とある世界で玲人が出会った戦士。玲人とは親友であり、良き理解者でもある。管理局の事は、「下がしっかりしてるが、上が腐っている」と表現している。零時や炎忌、奏などとの面識はない
仮面ライダーアギト：原作とほとんど同じ
変身ポーズ：右腕をフォーゼの変身ポーズのような感じにして、オルタリングを出現させる。さらに腰の両脇のスイッチに両手を触れ、「変身！」と叫んで変身する

光月「というわけで紹介終了！！！」

霊宮「簡潔にまとめたな」

光月「文字数やばくね？百文字もないと思う」

霊宮「この無意味な雑談をする必要もないし、劇場版仮面ライダーアギトについて語ろう」

光月「氷川さんがよかったな。Ｇ３－Ｘとしてじゃなく、氷川誠として戦ってＧ４に勝つのがよかった」

霊宮「完璧ネタばれだな・・・俺もそこに感動した。シャイニングフォームも格好よかったし。残念なのがストームフォーム出てなかった」

光月「つーわけで次回を楽しみにしてくれ。明日か明後日には更新するかもしれないから」

霊宮「というわけで次回」

データ18　旅・人・登・場

ＮＯｓｉｄｅ
とある森林に、神山兄弟に似た青年がいた。髪が緑色で、瞳が青色の青年、葉音流（はおんりゅう）は、自分の着ているコートの中からディケイドライバーの白いところを青に塗りつぶしたディケイドライバーに似た、ディロンドライバーを取り出した。そして、彼の周りにはいつのまにか怪人が１０体ほどいた

「・・・・邪魔」

そして、ディロンドライバーを腰につけると、バックルを開いて、一枚のカードを取り出すと、それをバックルの中に入れる

「変身」

そして、バックルを勢いよく閉じると

『ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ　ＤＥＲＯＮＤＯ』

灰色のスーツに身体が包まれ、黒色のプレートが頭に突き、身体の大部分が深い青色に染まる。そして、複眼が緑色に染まる。簡単に説明すると、ディケイドのマゼンタ色のところを深い青色にすればいい。これが

「ディロンド！！！貴様を排除する！！」

「・・・・・やってみれば」

そして、ディロンドがライドブッカーに似た、ロンドブッカーを取り出す（ライドブッカーの白いところを青色に塗りつぶしたもの）。そして、ソードモードにすると、１枚のカードを取り出す

『ＡＴＴＡＣＫＲＩＤＥ　ＳＬＡＳＨ』

「・・・斬・・・」

そして、青い斬撃「ディロンドスラッシュ」を発動すると、２体を一気に切り裂く。そして、近づいてきた３体目のオルフェノクに蹴りを入れると、袈裟に切り裂き、カードを一枚取り出し、バックルを開いてスキャンする

『ＫＡＭＥＮＲＩＤＥ　ＡＣＣＥＬ』

そして、ディロンドは、仮面ライダーアクセル・バイクフォームにカメンライドすると、ロンドブッカーを元に戻して、一枚のカードを取り出しスキャンする

『ＡＴＴＡＣＫＲＩＤＥ　ＥＮＧＩＮＥＢＬＡＤＥ』

スキャンしたのは、アクセルの専用武器のエンジンブレードを呼び出すカード。そしてエンジンブレードをオルフェノクに振りかぶって切り裂き、さらに重量に力を加えて半分に切り裂いて爆発させる。さらに、ドーパントが走り込み、蹴りを後ろから浴びせる

「っく・・・さっさと決めるか」

そして、戦闘中にスキャンしたものとは違うカードを取り出すと、エンジンブレードを地面に突き刺してスキャンする

『ＦＩＮＡＬＡＴＴＡＣＫＲＩＤＥ　ＡＣＣＥＬ』

「・・・死ね」

そして、アクセルの必殺技『アクセルグランツァー』を発動させるため、ドーパントを蹴りあげて、自分も蹴りあげたドーパントより高くジャンプすると、右足で蹴りを入れる。

「ぎゃあああ！！！！」

ドーパントが爆散した後、ディロンドアクセルはディロンドに戻る。その隙をついてイマジンが迫ってきてラリアットをするが、それをディロンドは軽く避けると、後ろに居たヤミーにロンドブッカー・ガンモードで銃撃をして、一枚のカードをスキャンする

『ＡＴＴＡＣＫＲＩＤＥ　ＢＬＡＳＴ』

そして、その場に居た、ヤミー、グロンギ、アンノウンの３体を巻き込んで、『ディロンドブラスト』を決めると、ロンドブッカーをソードモードにして、イマジンに斬りかかる。さらに残りの３体が加勢し、ディロンドは蹴り、殴りの連打を受けて後ろに少し下がる。が、二枚のカードを取り出し、一枚目のカードをスキャンする

『ＡＴＴＡＣＫＲＩＤＥ　ＩＬＬＵＳＩＯＮ』

このカードの効果でディロンドが三体に分身すると、もう一枚のカードを本物のディロンドがスキャンする。そのカードも、普通のカードと違い、ディロンドの紋章が書かれている青色のカードだった

『ＦＩＮＡＬＡＴＴＡＣＫＲＩＤＥ　ＤＥＲＯＮＤＯ！！』

「終わり」

そして、三体のディロンドがジャンプして、それぞれ十枚の青色のカードをくぐりぬけて、三体の怪人に『ディメンションキック』を放つ。そして、三体の怪人は爆発し、ディロンドは一人に戻った。そして、ディロンドは変身を解くと、流の姿に戻った

「・・・次の世界へ行こう」

そして、彼は銀色のオーロラを出現させると、その中をくぐりぬけていった

葉音が次の世界へ行っている間に、機動六課隊舎では、とある二人の男が話していた、しかし、その二人は本来はいないはずの、転生者であった

（あのリュウガとかいうの・・・仮面ライダー龍騎に出てたリュウガだよな？何でこの世界に居るんだ？それに管理局を敵とみなしていたし・・・・）

と、真面目に考えているのは、『火流裁（ひながれさい）』である。彼は転生者の中でも、テンプレチートとか俺ＴＵＥＥＥＥＥＥＥ！！とか考えてい

ない人である。でも、彼の友達で、同じ世界に転生した、銀城兄弟は、俺達ＴＵＥＥＥ！だったので玲人に殺されています。

「それにしても・・・なんなんだ？あのリュウガは」

「君も気になっていたか・・・・銀城兄弟も殺されていたしな、その際にオーズがいたらしいし、どこかの管理局の支部襲撃事件では、ブレイドとリュウガが一緒に居たとかあったしね・・・・」

裁の言葉にこたえたのは『鮫岸創（さめやまはじめ）』であった。ちなみに、裁の能力が『王の財宝（ゲートオブバビロン）』で、鮫岸の能力が『無限の剣製（アンリミテッドブレイドワークス）』である。まあ転生者が頼みそうなものですね（ｂｙ霊宮）

「ブレイド・リュウガ・オーズ・・・本来は正義の味方のはずだろ！？リュウガを除くけれど、何で人殺しとかを「まあ・・・・それが目的ですからね・・・？転生者さん」誰だ！！！？」

「何者ですか！？」

そこに現れたのは、リュウガでもある神山零時と、ナンバーズのクアットロがいた。どうやらクアットロのＩＳ『シルバーカーテン』で潜入していたものと見える

「神山零時ですけど・・・これを見せればわかると思いますが」

零時が突きだしたのは、リュウガのカードデッキ、そして、腰にはＶバックルが巻かれていた。それをみた裁と創が眼を見開いて驚いていた

「そう、零時ちゃんがリュウガなの～」

クアットロが能天気にそう言うと、零時はドラグブラッカーを呼び出すと、クアットロと一緒にまたがり、転生者言い放つ

「貴方達みたいな奴らに・・・負けるつもりはありませんから」

宣戦布告。零時はそういうとドラグブラッカーで硝子をたたき割って外へと出て行った。

「よかったのかしら？リュウガの事言っちゃって？」

「いいんですよ・・・それに、旅人が来たようですしね」

零時が下を見ると、そこには葉音がたっていた

「ここが次の世界か・・・・・・！！？ドラグ・・・ブラ・・ッカー？」

ｓｉｄｅｏｕｔ

データ19　旅・人・視・点（前書き）

今回も葉音視点です

データ19　旅・人・視・点

ｓｉｄｅ葉音
今回の世界は・・・少し特殊なようですね。まあ僕にはあまり関係ないですけど。それに、服装が制服っぽいですし・・・胸ポケットには・・・・？管理局？それにこの施設内清掃員・・・結局こんな役回りなんですね僕は。とりあえず目的の場所は・・・ここかよｏｒｚ

「・・・でかい・・・」

とりあえず中に入り・・・・ここからはすごいつまらないので割愛。言うところだけ言わせて貰うと、作業着きて掃除、掃除、掃除・・・・・・・やんなっちゃいます

「・・・・終わった」

僕は普段服に着替えると、外へ行く。しかし、その前に変な音が鳴る。どうやら厳戒態勢のようですね・・・なら、本業に戻りますか・・・・

『ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ・・・・』

「変身」

『ＤＥＲＯＮＤＯ！』

そして、仮面ライダーディロンドに変身すると、鏡の中からミラーワールドにいけると思い、触れてみたが、行けずに、仕方なく一枚

のカードを取り出す

『ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ　ＧＡＴＡＣＫ！』

『ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＣＬＯＣＫＵＰ』

そして、クロックアップ空間に入ると、外へ出て、変な黒々とした機械の前で、ディロンドに戻ると、ロンドブッカー・ソードモードを構えて見据える

「さてと・・・・やりあいますか」

そして、持っているソードモードのロンドブッカーで敵を何連続で切り裂き、鉄の塊へと変える。そして、今度はガンモードにして、一枚のカードを装填し、さらにもう一枚取り出す

『ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＩＬＬＵＳＩＯＮ！！ＢＬＡＳＴ！！！』

そして、５人に分身すると、ディロンドブラストを５人分一気に発射し、軽く残っていた機械の九割を削り落とす。さらに、分身が解けると、もう一枚の、ライダーカードを取り出す。このカードは、世界を旅していたころに最初の仲間となったライダー。異形と罵られ続けられながらも、愛する人間のために正義を貫きとおした男・・・・草槍（くさやり）リョウこと、仮面ライダーギルスに出会ったときに手に入れたカード

『ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ　ＧＩＬＬＳ！！』

そして、仮面ライダーギルスにカメンライドすると、肉弾戦で残り

の機械に、手刀、蹴り、殴りをする。そして、最後の機会が飛びかかってきたのを、蹴りで吹っ飛ばして終わらせる。

「リョウさん・・・・力を貸してくれてありがとうございます・・・・」

そして、・・・・はい、グリコォォォォ！！！！！なんか銃口っぽいもの突き付けられてね？なんか殺気がビンビンに・・・よし、落ちつけ、僕、ＣＯＯＬに構える・・・キャラ崩壊していたじゃないか・・・

「・・・誰？」

よし、ステルスを・・・・無理ぃィィィィィィ！！！怖いよ！？俺が出会った中でもあの暗黒物質（ダークマター）の卵焼き（最終兵器）を作る奴よりも怖い・・・

「・・・・すみません・・・・」

「お前は・・・・確か新人の清掃員だったな・・・・どういうこときかせて貰うＺ「ははははは！！！！そうはいかないんだよね～」お前は・・・結城に・・時空犯罪者の神山玲人！？」

「御免なさい・・・・玲人さんに言われて・・・・」

「あんた、ここは俺達が何とかしてやっから行け」

「・・・・助かった・・・・」

『ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＳＴＥＡＬＴＨ』

そして、ステルスで逃げると見せかけ・・・幼女を気絶させる。そしてステルスを解くと、神山玲人と呼ばれた男の人と、結城と呼ばれた女の人のほうに向きなおり、軽く一礼をすると、変身を解く

「・・・葉音流・・・君たちは・・・？」

「ま、積もる話は、こっちに来てから話せ。つうか俺に似てるな？」

よく言われる・・・・

ｓｉｄｅｏｕｔ

葉音流の説明

名前：葉音　流
性別：男
年齢：１７
性格：無口で、あまり感情を表に出さない。
説明：仮面ライダーディロンドに変身し、戦う青年。いままで１１の世界を渡っていて、ライダーカードはそれぞれの世界で手に入れたもの。
容姿：神山玲人に似ていると本編で言っていた通り、鏡音レンの髪を緑髪にして、瞳を青色にした感じ。
巡った世界
「葉音の世界」
葉音の世界。崩壊寸前だったのを葉音だけ脱出し、その際にディロンドの力を手に入れる
ギルスの世界
仮面ライダーギルス／草槍リョウの世界。ここで、ギルス系統のカードＦＦＲ・ギルスのカードを手に入れる
ナイトの世界
仮面ライダーナイト／秋原レンカの世界。ここで、ナイト系統のカードとＦＦＲ・ナイトのカードを手に入れる。ちなみにレンカは女ねカイザの世界
仮面ライダーカイザ／草加マサトの世界。ここで、カイザ系統のカードとＦＦＲ・カイザのカードを手似れる
カリスの世界
仮面ライダーカリス／相山ハジメの世界／ジョーカーの世界。ここで、カリス系統のカードとＦＦＲ・カリスのカードを手に入れる
威吹鬼の世界
仮面ライダー威吹鬼／泉イオリの世界。ここで、威吹鬼系統のカー

ドと、ＦＦＲ・イブキのカードを手似れた。
ガタックの世界
仮面ライダーガタック／鏡谷アラタの世界。ここで、ガタック系統のカードと、ＦＦＲ・ガタックのカードを手に入れる。
ゼロノスの世界
仮面ライダーゼロノス／桜山ユウトの世界。ここで、ゼロノス系統のカードとＦＦＲ・ゼロノスのカードを手に入れる
イクサの世界
仮面ライダーイクサ／戦王ケイスケの世界。ここで、イクサ系統のカードとＦＦＲ・イクサのカードを手に入れる
アクセルの世界
仮面ライダーアクセル／照井タツキの世界。ここで、アクセル系統のカードとＦＦＲ・アクセルのカードを手に入れる。
バースの世界
仮面ライダーバース／伊達シンタロウの世界。ここで、バース系統のカードとＦＦＲ・バースのカードを手に入れる
ネガ・葉音の世界
葉音の世界のネガバージョン。ディケイドのネガの世界と同じような世界ではあるが、ライダーの世界にありながらも、ライダーを信じずに、ライダーを怪物と言って迫害している世界、ここで、ディロンド専用のケータッチを手に入れる
ディロンドのスペック
身長：１９２？
体重：８３ｋｇ
パンチ力：６ｔ
キック力：１１ｔ
ジャンプ力：ひと跳び３５ｍ
走力：１００ｍを４．５秒
ディロンドのカードはディケイドとほとんど同じ
以上

データ２０　剣・王・覚・醒（前書き）

奏のブレイドが原作と同じになります

データ20　剣・王・覚・醒

ｓｉｄｅ玲人

「よし・・・・ブレイバックル完成した」

俺はラウズアブソーバーでは持ち運び不便じゃね？という理由と、流の知識から得たブレイバックルの正確な情報をもとにして、作り上げたのがこれだ

「あの・・・・できあがりましたか？」

「ああ、出来た。ブレイラウザーに通せるカードをラウズカード全部に変更、さらに強度を上げ、ｅｔｃ・・・・まあとりあえず良くなった」

「…面倒くさがり…」

流がそう言ってきたが、流して奏にブレイバックルを渡して研究室から追い出す。そして、流から渡された一枚のカード・・・・流の持つ他のライダーカードと違い、像が描かれていなく『ＧＥＮＯＣＩＤＥ』と書かれているカードに向き直ると、また解析を始める

「へぇ・・・面白そうじゃない」

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ零時

「威井伊井伊井伊！！！！ヴィヴィオが・・・六課に転移だと！？」

よし、スカさん締めるぞ。

「違うっスよ。ウーノ姐がミスっただけッス」

・・・・変更。ウーノをとＯＨＡＮＡＳＩする必要がありそうだ・・・・え？後でノーヴェとセインがおびえてる？ＮＡＮＤＡＴＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯＯ！！！！！！

「すんませんでした」

「何でいきなり土下座すんだよ！？」

そうノーヴェに突っ込まれた。そして・・・・僕は気付いた！！！六課をつぶせ、ヴィヴィオを奪還し、六課に大打撃を与え、転生者どもにひと泡吹かせられる

「みなさ～ん・・・て言ってもウェンディだけだけど・・・・

六　課　を　襲　撃　す　る　ぞ！！！！」

「そうッスか・・・ってエエ！？無謀すぎッスよ！！？」

「いや、ディエチに頼んで・・・・奇襲して、ミラーワールドからコンニチハして、ヴィヴィオを奪還して、幼稚園いれて、卒園まで見守るだけだよ！？」

とりあえず逝くことに決定。字は違うけれど気にするなー

sideout

データ２０　剣・王・覚・醒（後書き）

というわけでヴィヴイオが聖王のゆりかごを起動するために奪還されず、零時の独断により、奪還されることになりましたー

データ21　六・課・襲・撃

ｓｉｄｅ炎忌

「・・・・・おいでませ六課隊舎・・・・・・」

「「「誰に言っている？（んですか？）」」」

「いや、すまん」

俺たちは・・・・クアットロのシルバーカーテンを使っていますが何か？ま、いいとしてよぉ・・・・何故俺たちだけ？そして、今は機動六課のほとんどが交換意見陳述会でいない。つまりは・・・

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！』

「暴走おｋ」

『ＧＥＮＯＣＩＤＥ！！！！』

そして、ジェノサイドに変身すると、鳥型のエクストリームメモリを呼び出すと、奏をその中にデータ化して中に送り込む。そして、ジェノサイドシャフトを肩に置くと、我先にと六課に襲撃した

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ奏

（どこまでいくんでしょうか？ま、ブレイバックルを持っているので大丈夫でしょう。傍目を見ることが出来ると、なんか零時さんが

筋肉ムキムキの人に「女の敵！！！死ね！！！」とか言ってボコボコにしていますし、炎忌さんは周りの壁を「ウェーイ！！！」とオンドゥル教祖バリに言って壊していますし・・・）

何かとカオスですけれど、まあいいとして・・・・あのカスみたいな転生者がいるんでしょうか？二人もですよ！？玲人さんはそのうちの一人、火流裁とかいうやつと戦っているみたいですけれど。あ、もう一人がいた。よし殺そう

「よ・・・っと」

「何者だ」

ｓｉｄｅｏｕｔ

ｓｉｄｅ第三者

「何者だ」

鮫岾が無限の剣製で作り出した干将・莫耶を構えながら、奏に言う。対する奏はブレイバックルを腰につけ、トランプが腰を回り、ベルトを形作る。そして、ベルトにあるレバーを引くと

『ｔｕｒｎｕｐ』

という音声が鳴り、ベルトから放たれた、オリハルコンエレメントで形成されるトランプ・・・ラウズカードのスペードスートのＡ「ｃｈａｎｇｅｂｅｅｔｌｅ」のカードを奏が走ってくぐりぬけると、奏の体が仮面ライダーブレイドになる

「Ｉ　ａｍ　ｔｈｅ　ｂｏｎｅ　ｏｆ　ｍｙ　ｓｗｏｒｄ・・・・・」

そして、鮫岾が無限の剣製の詠唱呪文を唱えながら、奏のブレイラウザーを干将・莫耶で捌く。さらに、それを切り返すと、

「Ｓｔｅｅｌ　ｉｓ　ｍｙ　ｂｏｄｙ，　ａｎｄ　ｆｉｒｅ　ｉｓ　ｍｙ　ｂｌａｄｅ・・」

「五月蠅いな・・・・」

奏がそう言いながらも干将・莫耶をブレイラウザーで捌きながら蹴りを鮫岾に入れる。鮫岾はそれを必要最低限の動きで避ける。その間も詠唱呪文を常に唱えていた。そして・・・・

「Ｕｎｌｉｍｉｔｅｄ　ｂｌａｄｅ　ｗｏｒｋｓ」

そして、世界が一瞬にて、砂漠のような世界へと変わる。しかし、一つだけ砂漠と違うような点は、件が無限に突き刺さっているという、だけだった。奏はそれを見ながら、ラウズアブソーバーにクイーンのカードを入れ、ジャックのカードをスラッシュ・リーダーにラウズする

『ｆｕｓｉｏｎ　ｊａｃｋ』

戦いは、まだ始まったばかりだ

データ22　剣王VS贋作者の偽物

ＮＯｓｉｄｅ

「はぁ！！」

「おらぁ！！！」

奏ブレイド（以下Ｋブレイド）が強化型ブレイラウザーで斬り、それを創が投影したエクスカリバーで防御している。さらに、創は運命の弓矢（フェイト・アロー）という弓矢で距離をとってＫブレイドを狙撃する。がそれを『トリロバイトメタル』を発動させ、身体を硬質化させ防御。

「なかなかやるんですね・・・女なのに」

「舐めた真似するんじゃねえええ！！！！」

それに激高した奏は二枚のラウズカードをブレイラウザーから取り出す

『ｋｉｃｋ』

『Ｔｈｕｎｄｅｒ』

「熾天覆（ローエ）う七つの円環（・アイアス）！！！」

そして、創がロー・アイアスを投影する。避けるのではなく防御するのは何故であろう？

『ｌｉｇｈｔｎｉｎｇ　ｂｌａｓｔ』

「ウェェェェェェェィィィィ！！！！！」

そして、Ｋブレイドが飛び上がり、ライトニングブラストをロー・アイアスに真っ先に当てる。が、すぐに押し負けて、奏の変身が解けてバラバラと１３枚のラウズカードが奏の周りに散らばる。

「っくぅぅぅ・・・・・」

「さてと、公務執行妨害および・・・・・まあとにかく逮捕だ。ラウズカードとブレイバックルわたせ」

倒れている奏を鮫岸は容赦なく、腹を踏みつけながら言う。そのたび、奏の口からはうめき声が漏れている。そして、鮫岸は１３枚のラウズカードとブレイバックルを手に取り、バックルにスペードのＡのカードをいれてから、レバーを引く

『ｔｕｒｎｕｐ』

そして、ブレイド（以下Ｓブレイド）に変身する。そして鮫岸は固有結界を解くと、１枚のカードを取り出し、そこらへんに投げ捨てる

「さてと・・・・正義の味方の通りですね」

いつもの口調に戻る鮫岸はジェノサイドに走っていく。それを奏はよろよろと起き上がりながら鮫岸の捨てたカード・・・・カテゴリーＫのカードと予備のブレイバックルを取り出し、バックルにＫのカードをいれ、腰に当てる。そしてバックルからトランプがベルトを形作り、奏はバックルにあるレバーを引く

「変身」

『ｔｕｒｎｕｐ』

そして、スペードのカテゴリーＫのオリハルコンエレメントをくぐりぬけると、奏の姿はブレイド・キングフォームに似ている姿になった。少し違う点は、本来、奏が変身するキングフォームにあるアンデットの意匠がないところだった

「本来のキングフォーム、使うの初めてだけど、いっか」

そして、重醒剣キングラウザーを呼び出すと、Ｓブレイドに向かって走り出し、キングラウザーで切り裂いた

「がぁ！？何故ブレイドのキングフォームに・・・」

「いや、これが本来のキングフォーム。カテゴリーＫとだけ融合した状態を含みますけれど。何か？」

実はこの形態、無理矢理ブレイバックルを使って変身している形態でもある。だって、カテゴリーＡのブライムベスタなければ本来はブレイドに変身出来ないんだぜ？そして、Ｓブレイドからブレイラウザーを奪い取ると、ブレイラウザーから１１枚のカードが飛び出し、さらにＳブレイドのブレイバックルからもＡのカードが飛び出し、Ｋブレイドの周りをまわって、本来のキングフォームへと姿を変える。鮫岾は投影しようとするが、融合係数が低いはずなのにブレイドに変身したため、カテゴリーＡのカードに何故か魔力回路を全て奪われてしまったのである

「さてと、死ね」

そして、Kブレイドはキングラウザーにギルドラウズカードをスキャンする。しかし、何故か全てのカードがキングラウザーに入って行く

『spade two』

『spade three』

『spade four』

『spade five』

『spade six』

『spade seven』

『spade eight』

『spade nine』

『spade ten』

『spade jack』

『spade queen』

『spade king』

『ｓｐａｄｅ　ａｃｅ』

「はぁぁ・・・・」

そして、Ｋブレイドがキングラウザーを一振りすると、スペードスートのアンデット全てが出てくる。そして、それぞれが鮫岸を攻撃していく。そして、最後に

「が・・・ふぁ・・・・」

『あなたみたいな愚かな人に、従うわけないでしょう』

イーグルアンデットがそう言い、鮫岸に蹴りを加えて空中に上げる。さらに、

『本当だ。私は奏嬢だから協力しているだけだ』

カプリコーンアンデットがそう言いながらストレートパンチを鮫山にくらわせ、壁にめり込ませる。

『だって、奏お姉ちゃん優しいし』

コーカサスアンデットは、オールオーバーという大剣を鮫岸に突き刺し、無造作に、鮫岸の死体を放り投げる。そして、３体のアンデットはラウズカードに戻り、ブレイドのブレイラウザーへと戻る。

「私の・・・・か・・・ち・・」

そう言いながら奏は変身が解除され、その場に倒れた

データ２３　世界の断罪者ＶＳ王の虚像

ＮＯｓｉｄｅ

燃え上がる機動六課の中、すでに六課の隊員や、炎忌達は抜けだした中に、裁と葉音が向かい合って立っていた。

「・・・・君は、そんな借り物の能力で僕に勝てると思っているの・・・？」

「五月蠅い。それに俺にはこいつがあるからな」

そう言って裁は、恐らく王の財宝（ゲートオブバビロン）から出したと思われるディケイドライバーを腰につけ、ディケイドのカードを取り出し、ドライバーのバックルを開く。葉音も同じ行動をやった。しかし、ディロンドライバーとディロンドのカードという差異は存在するが

『『ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ・・・』』

「「変身」」

『ＤＥＣＡＤＥ！！』

『ＤＥＲＯＮＤＯ！』

裁の変身したディケイド（以下Ｓディケイドと呼びます）とディロンドが向かい合って、激突した。そして、葉音が一枚のカードを取り出してバックルに入れて読み込む

『ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ　ＣＵＬＬＩＳ！！』

ディロンドはカリスにカメンライドすると、さらにもう一枚のカードを読み込む

『ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＣＵＬＬＩＳ　ＡＲＲＯＷ！』

そして、カリスアローを召喚して、そのカリスアローについた刃で攻撃する。Ｓディケイドはそれをライドブッカーで防御し、逆にパンチをＤカリスへと当てる。

「っく・・・」

Ｄカリスは一度後退すると、また、カードをバックルに入れて読み込んだ

『ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＴＯＲＮＡＤＯ！』

そして、カリスの使用する、『トルネードホーク』を発動させるとそれをＳディケイドに当て、さらにもう一枚カードを読み込む

『ＡＴＴＡＣＫ　ＲＩＤＥ　ＣＨＯＰ！』

さらに、トルネードに捕らわれているＳディケイドめがけて『ヘッドチョップ』を当て、大きく吹っ飛ばす。さらに、もう一枚カードを読み込もうとするが、それをロンドブッカーンにしまい、ディロンドはその場から飛び退く

「！？有り得ない・・」

「は！有り得ないってことはあり得ないんだぜ！！！グリードもそう言っていた」

そう、Ｓディケイドは本来使えないはずのカード、『カイジンライド』を使い、フィロキセラワーム、ユートピア・ドーパント、グリードのカザリを呼び出していた。劣勢の葉音は、まったく動じずに３枚のカードを取り出す

１枚目は、仮面ライダーガタックと銀髪の青年が映っているカード。

２枚目は、仮面ライダーアクセルと赤髪の少女が映っているカード。

３枚目は、仮面ライダーバースと黄色の髪に、それぞれ蒼、赤のメッシュ入っている青年が映っているカード

「何だよ、そのカードは・・・」

「今一度お前を倒すために協力してもらおう」

そう言って葉音は、バックルに３枚のカードを装填する

『ＣＡＬＬ　ＲＩＤＥ　ＧＡＴＣＣＫ！！ＡＣＣＥＬ！！ＢＩＲＴＨ！！』

そして、カードを装填し、発動すると同時に蒼、赤、黄のオーロラが現れ、その中からカードに映っている者たちが出てきた

「何だよ、葉音・・・呼び出してさ」

「そうだぜ、俺は今までゲーセンに居たっていうのにさ・・・」

「何だよ・・・」

上から、ガタックこと「鏡谷アラタ」、アクセル「照井タツキ」、バース「伊達シンタロウ」が葉音に文句を言う

「仕方ないだろ・・・あいつがせこいんだから」

葉音はほかの人物と話す口調とは打って変わり、無口ではなくなっていた。それにSディケイドは驚き、ケータッチを取り出し、ファイナルカメンライドしてコンプリートフォームへと変わる

「何なんだよ!?こんな奴ら原作にはいなかったはず!?!?」

「さてと・・・俺もやりますかね」

そう言ってシンタロウがバースドライバーを出し、セルメダルをバースドライバーの投入口に入れる。それに反応したのかアラタもガタックゼクターを呼び出し、タツキもアクセルドライバーとアクセルメモリを取り出す

「変身」

『カポーン』

そしてシンタロウはバースに変身すると、カザリに向かってストレートパンチを繰り出し、後退させる。

『ＡＣＣＥＬ!!』

「変・・・身！！」

そして、タツキはアクセルドライバーにメモリを差し込んで、仮面ライダーアクセルに変身する。

「変身！！」

『ＨＥＮＳＩＮ　ｃｈａｎｇｅ　ｓｔａｇｂｅｅｔｌｅ』

アラタも、ゼクターをライダーベルトにつけ、直接ライダーフォームへと変身する。

「さてと・・・俺も行きますか」

データ２４　偽物勝利無

Ｎｏｓｉｄｅ

「オラよ！！！」

Ｄカリスが召還した３人のライダーにより、Ｓディケイドは押されていた。ガタックがフィロキセラワームと戦い、アクセルブースターがユートピアドーパントに対し優勢、カザリもバース・デイに少し押されていた。子の掛け声はバースがドリルアームをカザリに向けて叩きつけ、カザリからセルメダルが飛び去る際の言動である

「なぜだ！！！なぜ怪人たちが押されているのだ！？畜生・・・ならこい「おおっと・・・残念だけどそれは通用しないよ！！」っくう・・・」

そして、Ｓディケイドがさらに発動しようとしていたカイジンライドをＤカリスが妨害し、カリスアローの刃の部分でＳディケイドは切り裂かれ、うめき声を上げる。一方のガタックはフィロキセラワームをガタックダブルカリバーで押さえつけ、空中に放り投げた

『ｏｎｅ　ｔｗｏ　ｔｈｒｅｅ』

「ライダーキック！！」

『ｒｉｄｅｒ　ｋｉｃｋ』

空中に放り投げられたワームとガタックがクロックアップするのは同時で、その空間の中ではガタックがライダーキックをフィロキセ

ラワームに当てて、ワームを倒したところだった。そして、Dカリスがディロンドに戻り、一枚のカードをバックルに装填する

『ＦＩＮＡＬＦＯＡＭ　ＲＩＤＥ　ＧＡＴＴＣＫ！！』

そのカードの効果により、ガタックはガタックゼクターへと変形し、カザリめがけて突進する。さらに、バース・デイを解いたバースがその上に飛び乗り、ブレストキャノンを発動させ、セルメダルをベルトに２枚入れる

『ＣＥＬＬ　ＢＵＲＳＴ』

「大判ぶるまい！！！」

ガタックゼクターの上から放たれたセルバーストは、カザリに直撃し、カザリを爆発させる。しかし、セルメダルは飛び散らなかった。バースはそれに落胆していた。やはりセルメダルを使うライダーシステムだからねぇ・・・

「畜生！！！どいつもこいつも使えねえ奴らばっかりだ！！！」

Ｓディケイドはそう言いながらユートピアのほうへ加勢し、アクセルをつぶすために攻撃し始めた

「がはぁ！！！っち、ブースターでもさばききれねえぞ！？」

アクセルブースターはそう言いながらもエンジンブレードで攻撃をさばき、避けたりしながらエンジンメモリを取り出し、エンジンブレードに装填する

『ＥＮＧＩＮＥ！！ＭＡＸＩＭＵＭＤＲＩＶＥ！』

「おらよ！！！」

そして、Ｓディケイドめがけてエースラッシャーを放つが、Ｓディケイドはユートピア・ドーパントを盾代わりにして防御し、ユートピア・ドーパントは爆発する

「お前！！仲間を盾にするのかよ！！」

「はぁ？こいつらは道具だ」

「～！！てめえ！！！」

アクセルの言葉にＳディケイドがそう返すと、アクセルがＳディケイドめがけて突っ込んできた。が、それをライドブッカー・ソードモードでさばきながら、カードを一枚装填する

『ＣＲＡＺＹ　ＲＩＤＥ』

「！！タツキ、離れろ！！！」

葉音がそういうと、アクセルブースターはその場から飛び上がって回避する。そしてＳディケイドはコンプリートフォームへと進化する。が、本来ライダーのカードがある場所には空白のカードになっていた。

「何なんだよあれは・・」

「葉音、何かわかるか？」

「ああ・・・あれはこう呼称すればいい。ディケイドクレイジーフォームとな」

タツキが驚愕し、アラタが葉音に問いかけると、葉音はディケイドクレイジーフォームと呼称した。

「こんなときにハイパーゼクターがあればいいのによ！！」

アラタがそう言いながらも両方の腕だけをプットオンしてSディケイドCFへとガタックバルカンを連射していた。そして、葉音がこう、一言を紡ぐ

「奥の手だ。コンプリートフォームを使う」

データ２４　偽物滅

ＮＯｓｉｄｅ

「「「コンプリートフォーム？？？」」」

前回の話の最後は、葉音のコンプリートフォームを使う。というセリフで終わったが、次に待つセリフはこれでした。さて、メタすぎる話は置いといて

「うん、ま、すぐに片付けて帰って寝たいんだ」

葉音はそう言いながらロンドタッチを取り出し、コンプリートカードをセットする

『ＧＩＬＬＳ　ＫＮＩＧＨＴ　ＫＡＩＸＡ　ＣＡＬＬＩＳ　ＩＢＵＫＩ　ＧＡＴＡＣＫ　ＺＥＲＯＮＯＳ　ＩＸＡ　ＡＣＣＥＬ　ＢＩＲＴＨ！！』

ギルス～バースまでの平成サブライダー達のライダーズクレストをタッチすると、原子炉のような警告音が鳴り響き、葉音はベルトのバックルを開いて外し、バックルを右の腰につけ、ロンドタッチをあいたバックルがあった場所につける

『ＦＩＮＡＬ　ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ　ＤＥＲＯＮＤＯ！！』

そして、葉音が変身するディロンドがモザイクのようなものに包まれ、モザイクのようなものが晴れると、ディケイドコンプリートフォームの複眼とマゼンタ色のところを青くし、頭にあるカードはデ

ィロンドコンプリートフォームのカード。ディケイドコンプリートフォームが使うクウガ～キバまでのカードがある場所は、アクセル・バースの分まで増量され、右から左にかけてギルス～バースの最強形態のカードがある。さらに、ガタックはハイパーゼクターを使用した状態の、ガタックハイパーフォームへ、アクセルは本来二人以内となれないはずのサイクロンアクセルエクストリームへ、バースはセルメダルを使わずにバース・デイへと変化する

「久々だな・・・ハイパーフォームになるのは」

「えっと・・半分が赤で半分が緑？なんだこりゃ」

「セルメダルなしで・・・助かった～」

約一名、ありがたがっているものも居たが。さらに、ディロンドCFはロンドタッチのギルスのライダーズクレストを押す

『ＧＩＬＬＳ　ＫＡＭＥＮ　ＲＩＤＥ　ＥＸＳＥＥＤ』

そして、自立して動く仮面ライダーエクシードギルスは、ディケイドCF向けて触手のようなものを伸ばす。ディケイドCFはそれをよけるが、横にハイパークロックアップで迫っていたガタックHFがパンチをくらわせ、ディケイドCFは空中へ飛ばされる

「がは！！何でだ・・・・何でこいつが通用しない！！？」

ディケイドCFは困惑しながらもカードをバックルに装填する

『ＫＡＩＺＩＮ　ＲＩＤＥ　ＧＲＥＥＤ　ＧＩＬ』

カイジンライドされたギルは、周りを一度見渡すと何故かディケイドCFへと攻撃をする。さらに尻尾で空中に打ち上げ、バースのブレストキャノンを受ける。そして、ギルスがエクシードギルスクロウにより、追撃して地面にたたき落とす

「何でだぁぁ！！！！？？？」

「ふ・・・・伊達、さっさと決めろ」

「ああ・・相棒」

バース・デイとギルは実は親友であるらしい。そして、ディロンドCFがカードを6枚装填すると、軽くバックルを押す

『FINALATTACKRIDE　DERONDO！』

『FINALATTACKRIDE　GILLS！』

『FINALATTACKRIDE　GATACK！』

『FINALATTACKRIDE　ACCEL！』

『FINALATTACKRIDE　BIRTH！』

『FINALATTACKRIDE　GIL！』

なぜギルのカードがあるのかは謎だが、ギルス・ディロンド・ガタック・アクセルが、それぞれの必殺技を決める。

「はあああ！！！！」

「おらよ！！！」

「くらえ！」

「くたばれぇぇ！！」

上からギルス・ガタック・ディロンド・アクセルがそう言うと、ギルスがエクシードヒールクロウをディケイドＣＦに直撃させ、そこにディロンドのディメンションブレイクが直撃し宙に浮くと、そこにガタックのハイパーキックが直撃する。さらに、サイクロンアクセルエクストリームがエクストリームキックを決め、地面にたたきつける。

「おいおい、まだ終わってないけれど！！！」

「貴様には、俺は扱えない」

さらに、バース・デイのブレストキャノンから放つセルバーストが直撃し、最後にギルが尻尾で宙にディケイドＣＦをたたき上げ、肩から角を出してディケイドＣＦを串刺しにし、爆発させる。

「がああああああ！！！！！！！！！！！！！！」

叫び声をあげながらディケイドＣＦは上空へ吹っ飛び、何者かに受け止められる。それを変身を解除した葉音たちはみないで脱出すると、外には黒いオーラを纏いながらこっちを睨みつける零時と、おそらく零時に八つ当たりされたであろうたんこぶが頭にある炎忌・玲人・彰一

「リア充死ねえええええ！！！！！」

「「「「「「うっさいだまりう上がれ難破男！！！」」」」」」

「ｏｒｚ」

最後は６人の罵倒が入り、零時はｏｒｚポーズになった。

「さてと・・・・帰るぞ俺は」

「俺もです」

「俺もゲーセンでゲームの続きやりたいしさ」

「では、これで」

上からアラタ、シンタロウ、タツキ、ギルの人がそう言いながらオーロラをくぐりぬけ、自分の世界へと帰ると葉音は

「さて・・・・逃げるか」

清々しい顔をして、こう言ったそうだ

データ25　零時と奏と、時々ヴィヴィオ（前書き）

零時＆ウェンディ＆ノーヴェのキャラ崩壊警報発令

データ25　零時と奏と、時々ヴィヴィオ

side零時

「なんだってぇぇ！！！！！あの・・・伝説の恋愛ゲーム『MEMORY　SCANDAL』の続編本日発売だとぉぉぉぉ！！！！！」

「！？！？マジッスか零時！！買いに行かなくてはッス！！！！」

所持金二万円・・・・よし買える！！！ヨドバ〇〇メラまで行かなくては！！！！

～ヨドバ〇〇メラ～

「初回限定版には一番最初に選べる3ルートのヒロイン、倉石佳里奈か里花恋歌か朝宮レイハの3人のどれかのフィギュアが手に入るのか・・・・俺は何かな～できれば朝宮ライハがいいな・・・当たれ！！」

「いやいや、正統派で逝くと倉石佳里奈でしょ！！当たってくれッス！！」

しかしここであけるわけにもいかず、仕方なくスカさんのラボまで帰ることになった・・・ああ・・・予約しときゃあよかったな

～スカさんの家～

「よっしゃあああああああ出たぜぇぇぇ！！！！！」

「出たッス！！！！」

「お前らは本当にギャルゲー好きだな！！！」

ノーヴェよ、ポ〇モンとかイナ〇〇イレ〇〇みたいなショタゲーにはまっているお前の方があｒ「レイジサン・・？」・・・・Ｗｈａｔ ｉｓ？

「何で恋愛ゲーム買うんですか？」

「いやいやいやいや、俺の趣味だ・・・・それを邪魔するなら奏さんですら俺は・・・その屍を越えていく！！！」

「そんな二次元より私の方がいいってことを証明させてあげます！！！」

『Ｅｖｏｌｕｔｉｏｎ Ｋｉｎｇ』

『ＳＵＲＶＩＶＥ』

「「おらぁぁっぁぁぁっぁぁぁあ！！！！！」」

「頑張るッス零時！！！」

ｓｉｄｅｏｕｔ

ＮＯｓｉｄｅ

「「はぁぁぁぁぁぁ！！！」」

と、零時ＶＳ奏のライダー大戦ＧＡＭＥが展開されていた。実況席には悪乗りのウェンディと無理矢理なノーヴェ＋クアットロというカオスな陣営

『解説のクア姐、どう見るッスかこの勝負？』

『ん～そうねぇ～キングフォームの奏ちゃんが有利ね～。メタイけれどキングフォームで剣本編では使うと相手の死亡フラグらしいし』

『いや、作者の考えだろそれは！！？』

『サバイブもブラックドラグランザー呼べるッスからね～私のベノランザーの方が強いッスけれど』

『ＡＰ１２０００だもんなぁ！！！』

ウェンディ・ノーヴェ・クアットロは意外と普通に実況などをしていた。ツッコミノーヴェは除くが。

「おい、作者！！」

いや、だってツッコミはあんただろ？性格的に。あれ、何でこっちに歩いてきているんですｋ「死ねえええ！！！！」ぎゃあああああああああああ！！！！！

「ツッコミ言うな！！！」

はい・・・・まあ気を取り直して戦っていたわけですが、そこにヴィヴィオがきました。え、なのは＆フェイトがママという立ち位置ではない＝・・・・オ分かりかな

「何で零時パパと奏ママが喧嘩してるの・・・・・」

涙目なヴィヴィオを見て二人はとりあえず変身を解く。そして、クアットロから予想外の一言が投下される

「これで二人も夫婦ね～」

このとき作者含むこの場に居る人は悟った。『今後クアットロを面白い出来事にまきこむな』と

データ26　ｐａｒａｌｌｅｌｗｏｒｌｄ（前書き）

四季映姫のＤＯＫＩＤＯＫＩ添い寝ボイス聞きながら・・・・・執筆。

瞬「映姫ィィィィィィ！！！！！！かわいいよぉぉぉぉ！！！！」

映姫「そ、そうですか＼＼＼＼＼」

イチャイチャするなこのリア充どもーーーー！！！！

データ26　parallelworld

ＮＯｓｉｄｅ

「ん？玲人・・・・・なんだこれは？」

炎忌の目の前には、壁画なんというかずいぶん大きな者に、何とも言えない絵と、アンノウン語に似た文字が彫られていた

「読めるか？」

「あ、ああ・・・・・」

読んでみてくれ。と玲人が言い、炎忌は読み始めた

「『我、この場に記す。我、ここに、全ての世界の始まりを記録し、終わりを予期するものである』」

―始まりは、一つのオリジナル・・・プロト・ファーストの世界から様々なオリジナルが分岐していき、世界は無限に増えていった。さらに、プロト・ファーストから生まれたオリジナルの世界から分岐していた世界『Ｒｅ・ｉｍａｇｉｎａｔｉｏｎ』が生まれ、そこからさらに世界が生まれていった―

「はぁ？なんだよこれ・・・玲人？」

「続きを速く読め・・・・」

無駄口を言った炎忌に、玲人がジト眼で見ながらそういう

―さまざまな平行世界理論を語る者も居た。１つの世界には１２個の形態があり、１～１２を巡った世界は、さらなる進化を遂げるという理論を語った者。世界は無限に増え続け、いつか滅ぶと言った者、神がこの世界のすべてを作ったという者―

「未来視・・・か・・・」

「ああ、続けよう」

―私には未来視の能力がある。そして、その中で４０の可能性を見た。どんな世界の中にも希望があったが、彼らが持つ希望に敵う希望などなかった。その、戦士の名前は『仮面ライダー』。彼らは人間とかけ離れた姿をとりながらも、人を守るために闘い続けた

悪の組織・ショッカーに改造されながらも、心ある科学者により洗脳を免れ、人を守るために戦った始まりのライダー、一号

一号と同じくショッカーに捕まり、改造されかけるも、洗脳を免れ、一号と共に栄光のダブルライダーと呼ばれる、二号

デストロンに家族を殺害され、復讐の為に力を得ようとするが、否定をされ、ダブルライダーを助けるために瀕死の重傷を負い、ｖｉｃｔｏｒｙのＶ、三号という意味合いの名前を持つ、Ｖ３

デストロンに協力し、右腕を失ってしまうも部下達の改造を受けて、復讐に生きようとするも、Ｖ３と和解し、彼と一緒に闘い抜いた、ライダーマン

海を愛し、深海の水圧に対して耐えられる身体に改造され、嘆くも

父の叱責により立ち直り戦い抜いたＸ

野生で暮らし、心優しく素直に育ち、一度敵だった者を受け入れる優しさを持った、アマゾン

友を殺され、復讐のために自分も改造されるも洗脳を免れ、電気を操る戦士となった、ストロンガー

空を愛し、瀕死になりながら改造人間として戦った。スカイライダー

宇宙に飛ぶために改造され、拳法を使い戦う、スーパー１

改造手術を行われ、世紀王ブラックサタンとなるも脱出し、その黒の外見から名前を決めたＢＬＡＣＫ

仮面ライダーＢＬＡＣＫから太陽の力で進化した、ＢＬＡＣＫ　ＲＸ

笑顔を守るために戦い抜き、最後まで自分のために拳を振るわなかった、クウガ

記憶喪失ながらも、人のために闘い、戦いが終結した後は料理で人を幸せにしようとした、アギト

１３人のライダーの中で、彼らの持つ願いを知り苦しむも、自身と引き換えにライダーバトルを終わらせた、龍騎

自分も死者から蘇ったものではあるが、夢を守るために苦悩し、戦い抜いた、ファイズ

仕事としてライダーになり、仲間や人を守るために最後は自身まで

怪人となってしまった、ブレイド

古来より鬼として迫害されながらも、人間を守るために魔化網と戦った、響鬼

自身を世界の中心といい、唯我独尊ながらも正義を貫いた、カブト

気弱ながらも時を守るために何人もの仲間と一緒に戦った、電王

自身も人間とファンガイアの狭間で揺れ動きながらも、人間として成長していった、キバ

破壊者と呼ばれ、忌み嫌われても人を守るため、戦い、自身も仮面ライダーへとなった、ディケイド

優しいハードボイルドを自称するハーフボイルドと、膨大な知識を所有した魔少年の二人で一人のライダー、W

少しの小銭と明日のパンツがあれば生きられるといい、無欲に闘って一度は欲望に埋もれかけるも、自身の欲望を思い出して相棒と戦った、オーズ

全ての人間と友達になると豪語し、宇宙の力を得た、フォーゼ

彼らは平和のために戦い、そのたびに勝利を得てきた―

「だったら俺らも仮面ライダーか・・・炎忌」

「さっさと続ける」

―しかし、彼らでも対処できない危機が平行世界の最初・・・・プロト・ファーストの世界に危機が訪れている。プロト・ファースト・・・・・・ミッドチルダに危機が迫っている。私にこの危機を止めることはできない。この危機が止まらない場合、全ての平行世界は滅び、無が訪れる。この世界を救えるのは、ライダーだけであると信じている・・・・・・―

「ここで途切れているがな」

「ありがとな炎忌・・・これで俺らの最終目標が決まった」

「何だ？」

次に玲人は、今まで使っていない決定打を口にした

「この世界の管理局の悪行をミッドチルダでばらす」

データ27　saint king ship（前書き）

意味は『聖人王の船』？時間が結構飛んで聖王のゆりかご起動前からになります。しかし、展開はぶっ壊れてしまいます。なぜなら・・・・・・

転生者がいろいろやっているんだもの！！

データ27　saint　king　ship

ＮＯside

～機動六課～

「ついに来たな・・・・・この日が」

鮫岾は、自分の胸にある傷を見ながら指を銃の形にして天井を打ち抜くような動きをする。あの後鮫岾は駆けつけてきた仲間の転生者『狂音ライ』に助けられた。ライの能力は、『コードギアスのルルーシュのギアス』の暴走なしと『絶対蘇生』である。この絶対蘇生の能力で鮫岾は生き返り、なんとか五体満足でいることが出来た。火流は完全に身体がなくなっていたが、なんとか死後あまり立っていなく生き返らせることが出来た。

「あの葉音とか言う野郎・・・・ぶち殺してやるぜ・・・・」

「まあ待て、俺らにはこの力がある」

鮫岾はそう言って腰をさすると、火流は鬼の顔がついた音叉を取り出す。そして、その場から静かに離れた

～聖王のゆりかご～

「んで、聖王のゆりかご稼働状況は？ウーノ」

「はい、ヴィヴィオへのデメリットをすべてなくした結果、７０％まで上がりました。それより・・・・こんなにゆりかごを改造して

どうする気ですか」

ゆりかごは、もはやマクロス・クォーターと化していた。え、玲人が勝手に改変しちゃったんですよ。

「いいのいいの、スカさんが許可したし、従来よりこっちの方が効率いいし」

「そうですか・・・で、ナンバーズは」

「あんな機動六課へわたしても意味はない！！！」←ドヤ顔

玲人はそう言いながらドゥーエに戻ってくるよう言い、聖王のゆりかごへと乗り込む。これで乗り込むのはあと2人。ゆりかごの面々は・・・

「俺についてこい！！俺が正しい！フッ、フッ！！！」

「ヨッ、ッホ、ッハっと」

「意外ときついですねこえ・・・」

「ふらふらする・・・・」

「おお、いい運動になる」

「この動き・・・素晴らしい！！！」

呼び出した戦王ケイスケと葉音と炎忌と零時と奏と彰一はイクササイズをしていた。ナンバーズは最終調整をしていた。スカさんも某

素晴らしい！！！の人のような感じでやっていた（イクササイズを）
何故イクササイズなのかは気にするな！！俺も最近やろうとしてい
るんだぞ！！！

「その命・・・・神に返しなさい」

～出撃～

「さあ・・・・裁きましょう。悪の権化を」

「こんなメンバーで大丈夫か・・・？」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1725x/

空の刀が目指すは雷の神　外伝　正義の殺戮者

2011年11月26日16時54分発行